

一	三	三	九	二	三	三	三	三	六	五	五	三	三
高	津	沢	野	石	相	山	尾	京	山口	岩	八	河	山
山	野	村	村	川	川	中	尾	京	口	波	幡	野	田

神奈川教育

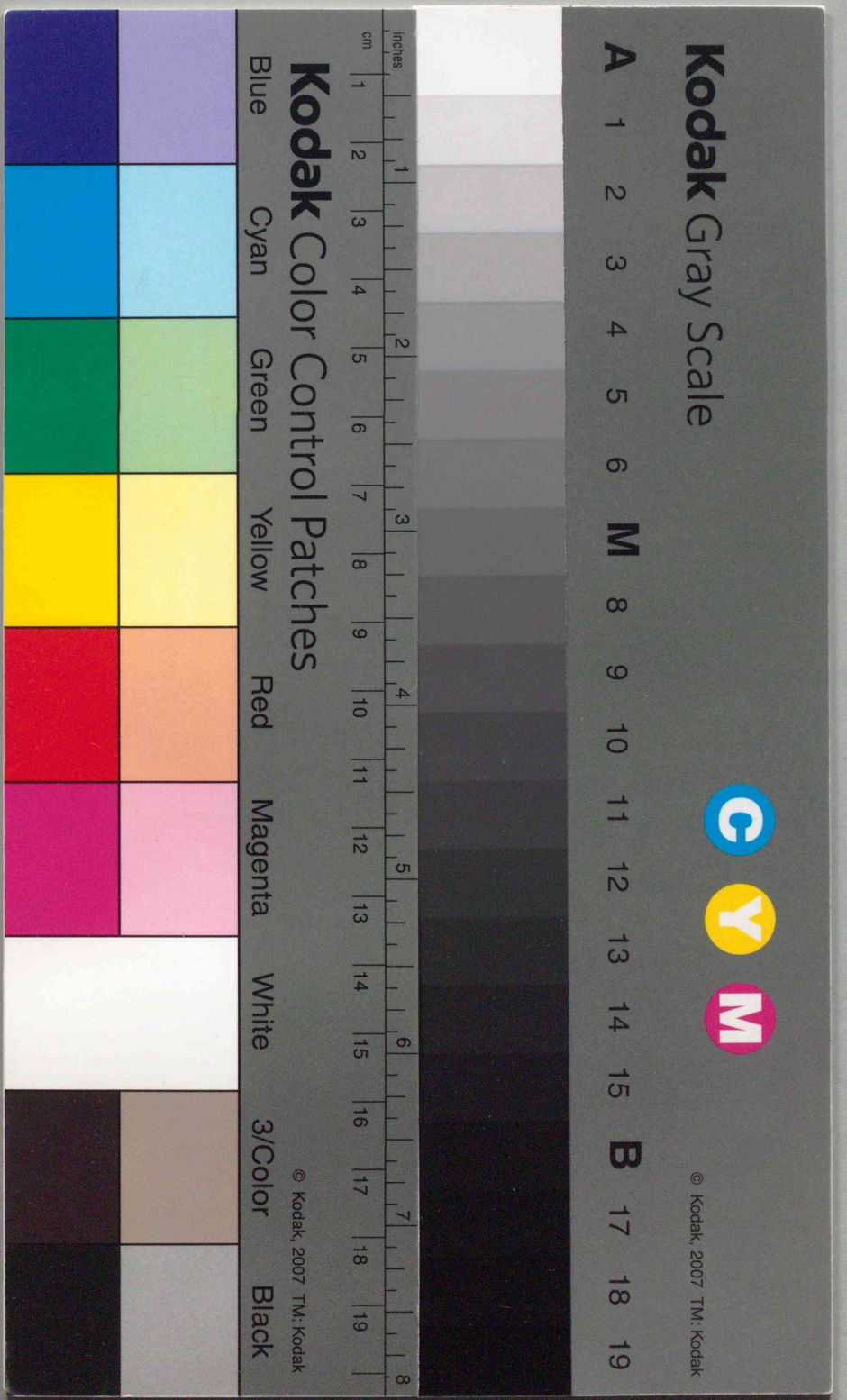
昭和六年十月五日發行

第二七百七十八號

大正 28

卷頭言	送迎辭	縣民諸氏に訴ふ	教化運動に民間有志の奮起を促す	南洋に關する諸感想	初秋	隣邦に於ける注目すべき二大政策に直面して	短歌—俳句	現下農村問題に對し農村教育は如何に施すべきか	生まらべき讀方の新潮(其の二)	各學年經營の努力點(其の二)	兒童俳句小見	丹澤山塊踏破紀行	ベルギーのコンゴの經營	情報(教育會—教員互助會)	彙報(中學修業年限短縮反對—雜報—叙任辭令)	編輯後記
.....
.....
.....

神奈川縣教育會



神奈川縣教育關係職員錄

昭和六年版

御入用の方は殘本のある限りお頒けいたしますか
ら、至急御申込み下さい

實費 金 五 拾 錢 (送料共)

附。發送濟みの代金は速納を願ひます

懸賞文集

現下、教育の懸弊は、教育の實際化、具體化、地方化、勞作化と謂ふことである。凡そ人間、經濟を離れた生活をなし得ないと云ふことは、如今、大不況の襲來が寒村邊土にまで波及して、人間生活の起伏消長を如何に深刻に支配しつゝあるかといふ、吾人、如實の體驗事實が語つてゐるのではないか。所謂、經濟困難や、思想惡化を、根絶的に好個に轉開させ得る唯一の途がありとすれば、それは一般教育の機構をば、もつと實生活に振り向けよと謂ふことである。

即ち最近教育の上に振興の新しい叫をきく所以のものは、かの生活哲學に立つからであらう。本會が今次、茲に二つの懸賞題を掲げて、或は理論に、或は實際方面に亘りて、恰く世の篤學なる人士に詢はんとする理由は、上述の趣旨にほかならないのであつて、而して之が一段の攻究を進め、嶄新の知識を呼び醒して、本縣教育に異彩の活躍を促進せんことを要望するからである。

江湖の緒賢!幸に本會のこの企圖を賛せられ、平素蘊蓄せる卓見と體驗とを、大いに公開せられ、斯界啓發のために奮つて應募せられんことを本會は切に勸奨してやまない者である。

懸賞題

一、本縣教育の現状よりみたる産業教育の振興について
二、郷土に即した教育の體驗と之が振興方法について

規定

- 一、紙數、何れも四百字原稿紙、八枚乃至四拾枚
- 二、締切、縣廳内本會事務所に昭和六年十月末日限のこと
- 三、發表、同年十二月發行、本會雜誌に掲載、選外佳作とも
- 四、入選者には毎題、左額の懸賞金を贈呈す

第一等 金 參 拾 圓 壹 名

第二等 金 貳 拾 圓 壹 名

第三等 金 拾 圓 貳 名

寄稿歓迎

論 說

教育、科學、宗教、藝術、社會の各方面に亘り、穩健、眞摯、しかも卒直にして現代人を覺醒するにたるものなれば何でも可なり。

研 究

教授、訓練、管理、看護、其他施設などに於いて工夫を凝らし、體驗を積まれた實感、實相、實効、更に教育者を裨益するに足る資料として、それ／＼の専門家の研究、意見なども歓迎したい。

文 藝

創作、兒童としては、童話、童話、童劇の如きを始め、漢詩、和歌、俳句その他自由詩、奇抜のところでは諷刺諧謔、洒脫、狂句其他漫畫、漫談の類もおもしろい。

報 道

自然と、社會事情の變化は、刻々として來る、地理、歴史、産業、文化施設など、地方的教育資料に迂濶なものも教育者としては宥るされないことでもあらう。さては全郡市の教育状態の推移と盛衰とに覈へて、全縣教育の趨勢をお互に詳に知りたい。

以上は梗概。その他隨感、隨筆の類に至るまで奮つて寄稿願へれば幸である。個人でも團體でも、又何の研究部とか、同人の研究とかの物でも、本誌を利用してどし／＼發表下さい。月刊がやがて週刊に發展するまで、お互に紙面を明るく賑やかにして戴くやうに。

縣下教職員數約六千といふに比しては、月々の寄書の員數が多い方とは云へないやうに思はれる。お互に忙殺されてゐるのでから、起稿が苦になる、併し持合はされてゐる金玉の意見を公開されるのも一種の奉仕作業だと考へられて、希くは御執筆下さい。原稿用紙は御一報次第お送りいたします。

神奈川縣教育會

義務教育費國庫負擔金増額に關する請願

(取鑑メ方ニ付全國聯合教育會ヨリ本會ニ照會セシ者)

時局ニ鑑ミ國家ハ昭和七年度ニ於テ義務教育費國庫負擔金壹千五百萬圓ヲ増額セラレタシ

右議院法第六拾貳條ニヨツテ請願致シマス依ツテ速ニ其ノ實現ヲ見ルヤウ御審議ノ上御採擇ヲ仰ギ度ク左ニ理由ヲ具シ懇願申上マス

理 由

義務教育費國庫負擔金増額ハ我々ノ多年要望シテ來タコロデアリマス。義務教育ハ次代ノ國民ヲ作ルベキ普遍的ナ基礎的ナ教育デアツテ極メテ、重大ナル意義ヲ有シテ居ルノデアリマスカラ、其ノ成績ヲ完カラシムルタメニ國ヲ擧ゲテ努力ベキコトハ言フマデモナイコトデアリマス。然ルニ市町村財政ノ漸次的窮乏ハ市町村教育費ノ負擔ニ苦シムノ状態ヲ生ジ從ツテ教育者生活ノ不安定ヲ醸シツ、アルノデアリマス。ソコデ市町村財政救済ノ爲メニ且ツ又教育者生活安定ノタメ義務教育費國庫負擔金ヲ更ニ大イニ増額スベキハ當然ノ國策ト考ヘマスノデ、我々ハ多年コレヲ主張シテ來タノデアリマス。然ルニ今日ハ未曾有ノ世界的不況ヲ受ケ國ヲ擧ゲ經濟難ニ直面シ殊ニ市町村財政ノ困難ハソノ極ニ達シテ居ルノデアリマス。ソコデ或ハ吏員教員等ノ俸給ノ幾割カラ減額シ、或ハ強制的ニ寄附強要ヲ求メルノ聲モアリ事實モアルノデアリマス。コノ有様ハ市町村財政ニトツテ由々シキ問題デアアルノミナラズ教育者ノ生活ニトツテ容易ナラザル問題デアリマス。從ツテ重大性アル義務教育ノ向上發展ヲ阻害スル患ノアルコトハ明白ナコトデアリマス。サレバ此ノ時ニ當ツテ斯ル經濟的並ニ精神的窮狀不安ヲ救済スルタメニハ、少クトモ教員給全額ノ約一割壹千五百萬圓ヲ國庫ヨリ増額スルコトガ最モ緊急ノ國策デアアルコトヲ信スルノデアリマス。何卒昭和七年度ニ於テ右金額増額ノ實現ヲ見ルヤウ御採決下サレ度、謹ンデ請願スル次第デアリマス。

昭和 年 月 日

現住所 (職業)

氏名

年 月 日生

宣言

中學教育ハ國民ノ中堅トナリ、國家ノ忠實ナル幹部タルヘキ人士ヲ養成スルニアルヲ以テ、其ノ修業年限ハ現在ノ五ケ年ニテモ尙十分ナリト云フベカラズ。然ルニ今ヤ文部省學制改革案ハ更ニ之ヲ短縮シテ四ケ年トセリ、此レ實ニ我中學教育ヲ根底ヨリ破壊スル虞アルヲ以テ全國中學校代表者會ハ全會一致ヲ以テ之レニ反對ス。惟フニ學制ノ革新ハ、將來國運ノ隆昌ヲ來タスベキ重大ナルヲ以テ、少數ノ當局者カ短期間ニ依テ決定スヘキモノニアラス。故ニ吾人ハ世上ニ傳ヘラル、カ如キ學制改革案カ文政審議會ニ附議セラル、ニ先タチ、政府ハ宜シク學識經驗ノ豊富ナル人士ヲ網羅シテ權威アル調査機關ヲ設ケ慎重ニ研究スヘキモノト信ス。

昭和六年九月（情報參照）

全國中等學校代表者會

賴山陽先生遺蹟顯彰會に就いて

賴山陽先生は、十二歳にして既に立志論を書き「男子學ばずんば即ち己む。學はゞ當に群を超ゆべし」と、超凡の意氣以て窺ふに足る。當時徳川幕府極盛の期に當り、武家の跋扈著しく、王政の式微愈々甚だしきを見るや、先生二十三歳の弱年を以てして、敢然立つて「日本外史」の編纂に着手し、幾多の難關障礙に逢ひつゝも不屈不撓毅然たる精神を持し、克く波瀾重疊の境地を切り抜け、血の滲む程の努力に由り二十有餘年の星霜を経て遂にその完成を告ぐ。劈頭序論に於て「大權の將門（武家）に歸せし」顛末を痛論し「國勢の推移は、人力の能く維持する所にあらざるものあり」と諷して、武家執政の不條理を説き、而も隱微の間に「後の世を憂ふる者は、まさに以て心を留むるあらんとす」と、蓋先生の面目躍如たるものあり。その筆を收めつゝ、感慨淋漓、鼓舞激勵、天下の志ある者をして、一唱三歎の餘、おもむろに機運の到來を念ずるに急ならしめたことは、今更これを説くまでもあるまい。外史と併びて、先生が精力を傾注した「日本政記」は、病臥呻吟の中に苦惱を忍びつゝ執筆し、史實に據りて論辯し、南北論を遺して遂に修史の結論を明らかにし、文章報國の實を示されてゐる。



語 頭 卷

△東郷元帥閣下 本誌の瀏覽を賜はると灰聞す。洵に光榮の至極なり。茲一齣卷頭を飾り、廣く會員各位に告げてこの慶福を頌つことにした。

△北に滿洲事變あり、南に江河の氾濫あり、滿蒙の獨立說具體化されて、學良の影いよ／＼うすらぎ、南清の排貨同盟日に／＼猖獗を極むれば東洋貿易いささか痛痒を覺えたり而も連年強豪兵を構へて塗炭に苦しむ者は、唯支那民衆のみ、困つた者は隣邦民國の官憲なるかな。

△我が本庄關東軍司令官の聲明書は近來の快文字なり。正義に始終する日東男兒の面目、世界に躍如たる堂々數千言。天地神明に恥ぢざるの概がある、善哉／＼滿蒙在住三千萬民族の幸福のため、共存共榮の樂土の速に實現せんためと我が尊き犠牲の血は輝く。義戦は天下無敵なり。

△大なる哉日本、美なる哉其使命。

弱者の嘆語たる赤化思想にかぶれることをやめよ。いろいろな反政府同盟にから騒ぎすることをやめよ。これらは區々たる耳垢鼻糞の類のみ、行き詰まつた者には執着するこ
となく豁然すべてを放擲せよ。

南米の新天地は汝の鋤犁を待ち、滿蒙の大沃野は汝の鐵腕を待てり。(Y S 生)

「外史」政記」は、やがて諸藩學問所必須の教科書となり、同時に一般讀書界を刺戟し、勤王の精神は到處に勃興し、憂世の士は踵を接して、四方に現はれ、遂に維新の鴻業を翼成せしめたのである。是に於てか、先生の潜功隱徳は畏くも曩に贈位の追賞となりて、永へに聖恩に浴することゝなつた。斯の光榮ある先生の遺功を不朽に追慕し、以て敬愛の誠を効すは蓋、吾人の責務ではあるまいか。

乃ち先生の郷里廣島に於ては先年來官民合同の美擧に依り、賴山陽先生遺蹟顯彰會なるものを組織し、郷土の異彩たる先生の歿後百年に相當する本年を卜し、先生の英靈を敬祀し、併て各種記念事業を起して、先生の功績を顯彰し、大方の注意を喚起して、國民思想の涵養に資し、萬代に不朽なるべき此の偉人の英靈を慰むると共に、此の偉人を産出した輝かしき郷土の誇りを滿天下に宣揚せん事に努めてゐる

事 業

- 一、百年 祭 十月十六日午前十時 廣島市西練兵場に於て神式にて舉行す。
- 二、附 帶 事業
 - 一、記念講演會
 - 一、山陽先生遺品遺墨展覽會
 - 一、寄贈美術品展覽會
 - 一、献 詠 募 集

一、協 賛 事業

- 一、刊 行 事業
 - 1 賴山陽全書刊行
 - 2 百年記念賴山陽
 - 3 賴山陽先生の百年祭を迎へて
 - 4 遺墨寫眞帖
 - 一、舊 居 修 築
 - 一、記念館建設
- 「本記事は廣島縣知事の依頼に由りて掲載す」

送 迎 辭

前教務課長村上寛君 遽に山口縣岩國中學校長に榮轉せられた。この報をきくもの總之教職に在る校の小中を論ぜず、人の親疎を擇ばず、操觚界亦苟且も君を知れる者は、聲を齊しくして「惜乎好漢去るか」と歎聲を放たしめたのであつた。

君は實に任期三年有半、其の間、視學官として、教務課長として、將又教育會副會長として、君によつて遺された功業偉蹟は蓋し尠くなかつた。即ちかの縣民讀本、教員互助會の如き、悉皆、君が意圖妙籌を語るものと謂つてよい。就中、人事行政の如き、君に獨特の靈腕あつて、遇々郡制の廢撤に伴ふ小中教職員の交迭整理を始め、屢々空前の大斧鉞を施せしにかゝはらず、遂に怨嗟の聲を聽くなかりしは、舉黜の正鵠を過たざりしと、退隱の情味亦缺くる所なかりし君の聰明さの表徴である。

されば思想惡化に、俸給不拂に、人事折衝に用意稠密にして機微巧妙の至りをつくせば、赤化も不況も流石に社會事象の因をなし得なかつたことは、眞に本縣教育のため慶すべく、謝すべき顯著な事實であつて之は又當代一奇蹟の感なくんばあらず。

が併し乍ら一旦君の聲容に接せんか、何人も事の偶然たらざるを必ず覺らん、君は一夕拾年の交を契る抱擁力を有し、懇に聽き懇に諭へ懇に人のために謀る、そこにはありかちの官臭味が少ない。常住座臥、莞爾として優游迫らず、和風四周をこめ、論誼の靜穩なる、應對の謙讓なる、共に眞情掬すべきものがあつて、口頭臙脂を含めた皮相の漂ひを認めなかつた。元より多變的な感情家でも、多角的な理屈家でも、

翻々たる俗才子の類でもなかつた。君は自然味の豊かな平凡な大人格であつた。此が君をして名を成さしめた所以である。

遮莫、昔、南洲は一朝廟議合はずして郷關に退き、三千の健兒にかれが後圖を托すべく志を育英に馳せたと謂ふ。今、君、幾多の俊髦を出せる母校に迎へられて東都を去る、抱負のある所其の得意や思ふべきである。人も知る。山陽の景趣、山紫水明、石磯、松蒼く、砂白し、君、幸に聖體を長養して郷校の事に従ひ、故智に學びては郷黨の先覺として範を後昆に貽されんことを望むや功なり。

君請ふ冀はくば自愛自重せよ。

駒うたせ歸り行く君かざすなりけふのいさほを家つとにして

ひとり居の母のみかりに急くな東の秋にこゝろのこして

苔のむす岩國川の瀬はふちとなるまで君かざちいのるかな

嘶きをきゝてそいさむ殿原に見せはや君のむねのかかやき

思へとや君の用ひし曲ろくのわひしくめたつ今日きのふかな

河邊新教務課長は先生と呼びかけ得る程、吾等に懐しみの深い仁である。現に本縣小學校教育界の中堅人物、その多くは君が師範當時の教へ見なりしと言へば、吾師のため鹿鳴を吟して滿を引き白を擧ぐ、情義の蒼なるや察すべきである。

聞説、君、頭腦明晰、氣宇濶達、聲利恬淡なりと、一縣文教の重任として適材を得たるは蓋し幸であつた。隨つて吾人の期待や亦鮮しとしない。そも、今時教育を論ずる者に、思想問題、經濟問題、學制改革、人事行政、内容刷新など擧ぐるに遑なく、而して教育團體の革新亦其の一でなければならぬ。

即ち小は府縣郡市教育會より大は中央教育會に至る現状を以つて果してよく時代と駢進しつゝありと言へるであらうか、乞ふ吾人をして忌憚なく此に語らしめよ、喩へば大伽藍の嚴しきが梁楹の朽ちたるにも似たる教育會、人心倦みて志氣沮遏せり、固より教師としては沈着溫良恭謙讓なる大に好し、然れども敢爲の氣性と、侃諤の氣概と、決斷に乏しきとは必ずしも與みすべきことにあらず、況んや動もすれば退嬰に流れて小天地に跼蹐し、小利に執はれて大節に赴くを忘れたらん如きは、生々潑刺たる昭和新政の師表としての資質をかく者と謂ふべきか、須らく現實に墮せず、理想に溺れず、泣くべきに泣き、憤るべきに憤り、起つべきに起て、皇國のために、民族のために、人類のために。

今ぞ翻然十字街頭に出動して、其本然の使命の下に活躍すべきではないのか。

近時頻りに赤化教員を出せるやに傳ふ。自他誠に深憂に堪えない。自體かゝる事は環境の意欲に正條なる輿論をかき、何等の統整力のなき一證左であるとも謂へる。

視よ明治維新の青年黨なる者を、正潤兩派、搏撃の間、至誠至醇なる輿論ありたればこそ遂に大義一本に歸した。實に勝敗の數は輿論の中に胚胎せりと謂へる。然り而して所謂輿論の指導たるや、之を當代の政治家に於いて望むべからず、實業家又非なり、宗教家又非なり、文藝家又非なり、労働者非なり、社會主義者非なり、唯夫教育者の集團たる教育會あるのみである。されば將來一縣教育の興廢たる、かゝつて縣市郡教育會氣勢の奈何にありと謂ふべきである。

吾人教育會は、今、新課長を迎へるに際して此に滿腔の敬意と祝意とを披瀝すると共に、本會の誘掖指導の上に君が一臂の勞をかすに吝ならざらんことを念願して止まざるなり。吾曹弟子の禮を執つて誓つて尊師の教に遵はんとしか言ふ。(Y S 生)

縣民諸氏に訴ふ



震災記念日に當り實行要目二ヶ條を提唱して

神奈川縣知事 山 縣 治 郎

八年前に於ける關東大震災火災の當時を追憶すれば、蔭慘の氣身に迫り、凄愴の狀眼前に彷彿として、轉々感慨の無量なるものがあります。

噫、既往數百年存々として經營した文化は一朝にして灰燼と化し、百億の富と十萬の生靈とを奪ひ去られるといふ様な慘劇は、古來幾多の天變地異戰亂等に稽へましても全く例を見ない大慘禍であります。

殊に我が神奈川縣は震害の中心とも稱すべく、被害は全縣に亘り、人口の八割五分は罹災の慘苦を嘗め、歿死者實に三萬、粒々辛苦に成れる財貨十數億を喪失してゐるのであります。就中横濱市の如く全市を擧げて焦土と化し瓦石磊々たるの光景をまのあたりしましては、呆然として人爲の亦如何ともす可らざるを嘆せしめたのであります。

災後に於ける縣民の生活も亦實に悲慘なものであります。上皇室の御仁慈と、國內のみならず遠く外國よりの救済賑恤とに依つて辛くも雨露を凌ぎ生を繋ぐ中、相愛共營の念は勃然として生氣を復活し、中央政府の施設援助と相待つて復興の曙光は漸く兆しました。

爾來八星霜、縣民の努力は酬ひられました。街衢は整理せられて壯麗なる建築は立並び、道路、橋梁、通信、交通の機關に至るまで悉く舊觀を更め、最新科學を應用せる文化的施設が整備せられました。外形の復興は略々完成を告げました。一昨春、畏くも、天皇陛下横濱市に行幸あり、親しく其の狀況を嚮せらるゝに至りましたことは、縣民の無上の光榮とす

る處であります。

然しこゝに運ぶ迄には、縣民の非常なる努力に依つたことは勿論であります。一面には莫大なる資金を要したのであります。爲に負債は山積して、今や縣市町村債合せて二億圓に垂んとしてゐます。殊に昭和三年までは復興資の借入に依つて財政上の運轉も出來たのであります。が、四年度より全く反對に之れ等負債の償還をしなければならぬのに加へて、世界的な經濟の不況は彌々深刻化して、財政の窮乏は其の極に達するに至りました。依つて私は本縣來任以來、昭和四年度に於ける縣豫算の實行に當つて約百二十萬圓を節約し、更に五年度に於いて約二百萬圓、六年度に於いて約百五十萬圓の節約を斷行致しまして鋭意縣財政の建直しに努力致して居るのであります。

申すまでもなく各方面から受けました精神的な慰撫援助に對しては、精神的に酬いるやう衷心よりの謝意を捧げて日々の業務に精進致して居るのであります。が、物質的に援助を得ました借金は、飽くまでも之を返済しなければなりません。例へて見れば今日の復興は丁度借金で建てた家の様なもので、自分達のものにはあるが借金を償還するまでは完全に自分達のものとは稱し得ないのであります。故に之を完全に自分達のものにする爲には今後層一層の苦心と努力とを要します。此大なる責務、過重な負擔を有する本縣民が他府縣民と異なる大なる覺悟と決心とを要するは明なる理であります。

此の難局に當り、縣民として之に處すべき方途も多々ありますが、私は次の二條目を以つて極力其の實效を擧げたいと思ふのであります。其の一は他府縣民よりも毎日一時間餘計の勤勉をなすこととあります。其の二は從來よりも生活費の一割を節約することとあります。

此の一時間多く勤勉すると申しましたが、必ずしも官廳や學校の勤務時間を一時間だけ延長するといふ様な事に限る意味ではないのであります。勿論官吏、教員、會社員等が其の勤務する所に三十分早く出勤して、三十分遅くまで勉強するといふならば夫れは誠に結構であります。併し勤務時間の長いばかりが良いのではなく、實質的に仕事の能率を擧げることが肝要なのであります。

又人に依つては必ずしも勤務時間を長くせずとも自己の業務上につき、修養上につき、或は社會公共の爲に普通ならば休養すべき時間を割いて毎日一時間宛勤務に服する。即それだけ餘計に勉強をするといふ事であれば之れ亦結構であります。之れは多少困難な事の様にも見られますが、震災直後の艱苦に比べたならば物の數でもないと思ふのであります。殊に自ら生を全うし得たる喜びと、今日此の復興の惠澤とを享受し得る感謝の念とを以て自分の責務を明らかに、進んで勤務に服するといふ崇高な精神になることは、延長された時間は僅々一時間であつても、其の日の悉くに此の精神が織り込まれますので、勤務そのものが純化せられて神聖なるものとなる計りでなく、能率増進の上にも大なる影響あるは論を待たないこととあります。

次に生活費の一割節約についてであります。既に官吏、教員等の一部は減俸に依つて節約を餘儀なくせられてゐる向もあるのですが、近時財界の不況は一般諸物價の低落を示してゐます。

且又歐州大戦當時の好況時代に於ける放漫な生活が禍して、浮華放縱の風が國民全般に浸潤して参りました折柄、彼の大震災に遭遇して大いに覺醒する所はありましたものゝ風潮の趨く所人心自ら浮薄に傾き、生活費の如きも頗る膨脹しつゝあるは明なる事實であります。

加之、舊來の風習慣例等の中には、可なり無駄も多く、改善を要するものが多々あると存せられますので、之を合理化し經濟化することは、生活改善上緊要なることと存じます。

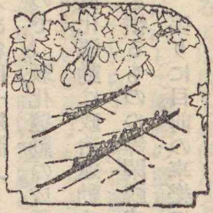
彼此考へ合せますれば、生活費の一割位を節約することは、大なる無理をせずとも大部分の人に實行出來ることであると思はれます。そして之れに依つて消費節約と生活改善との二つを一舉に兩得する結果たらしめたいのであります。

以上縷述致しました様に、積極的には勤務を一時間延長して、尙能率の増進を圖り、消極的には生活費を一割約して、以て經濟生活の安固を期したいと存するのであります。縣下百六十萬の縣民諸君が一致して斯くの如くすれば、二億圓の借金などは何でもなく償還することが出來ます。

喉元過ぐれば熱さを忘るの喻にもれず、近時動もすれば、人心の弛緩に伴ひ、思想上、經濟上深甚の考慮を致さざる可らざる秋に當り、縣民たる者は、須らく八年前の慘苦を追憶して、深く省察し、自奮自勵する所がなければならぬと共に強制に非ず拘束に非ず、眞に感謝より生じ自覺より發したる日常の實行要目として、前述二條目の勵行に力められたいと思ひます。斯くして堅忍不拔の精氣を以て、官民一致縣政の圓滿なる進展を圖ると言ふことは、實に縣民相互の福利を増進するに止らず、上 聖慮に對へ奉り、下 殃死者三萬の靈に對する情誼であると考へます。茲に所懐を述べて親愛する縣民諸氏の明鑒に訴へ、其の協力を求めて息まないであります。

○實業學務局廢す可らず

行政財政整理案として實業學務局を廢止せんとするの議ありと聞く、若し其の理由が實業學務局所管の行政事務を重要な程度少くして一局を特設して之を管理せしむる要なしと見たるに依るものとせば、それは根本に於て實業教育の本質を誤解せるのみならず、又現時我國に於ける實業教育の實際に通ぜざる時勢に逆行するものと言はざるを得ず。從來我國に於ては一般多くは普通教育を偏重し國民生活の實際に即する實業教育の重要なことを理解せざるもの多かりしが、曩に優詔を奉じて設置せられたる臨時教育會議の結果、大正八年度以來實業學務局を特設するに至りしものにして、世界大戦後其の財政行政の整理緊縮の際に拘らず英、佛、獨、米等何れも實業教育に關する機關を特設し科學教育及職業教育の振興實業補習教育の義務制を實施する等斯教育の發展を圖れり。翻て我が國現代の教育思想は教育の社會化を以て其の要素となすものにして此の目的を達する爲には國民の實際生活に即したる實業教育に重きを置かざるべからず。然るに實業教育は近時の發達に屬するが爲に之に關し其の制度施設内容等將來計畫實施を要する問題極めて多大なり、農村問題に伴ふ農業教育の如き、輸出貿易促進上工業・商業・商船教育等の改善に關する問題の如き又實業補習教育の内容改善及其の義務制の問題の如き凡て我國の産業政策、社會政策と相伴ひて一定の計畫を樹立し經綸を行ふべきものにして之が爲には常に産業の現状に推移を洞察し之に應じて實業學校の制度並に教科内容を刷新改善し絶へず時代の進運に適應せる教育を施さざる可らずそれ故に實業學務局の任務は他の各局に比して一層の重要性を帯ぶるものとして其の存立を主張する所以なり。



教化運動に民間有志の奮起を促す

加 藤 咄 堂

教化總動員は會て文部省が提唱した。しかしながら教化運動は文部省のみの運動ではなく教化醇厚の聖旨を實現すべき舉國一致の國民的運動である。官邊の施設が如何に變更しようとも、教化運動は國民恒久の運動として吾等の前に遺されて居るのである。

政策によつて變易せらるべきものでなく、官僚の意向によつて左右せらるべきものでもない。偶ま政府これを提唱したるが故に政府の仕事とし、民間これを開始したるが故に民間の仕事とし、官民を分ちて其の事を二、三にする如きは教化の本領を發揮する所以にあらずして寧ろこれを阻害するものである。重ねていふ。教化運動は舉國一致の國民運動であつて斷じて黨臭吏臭を帯びるべきものではない。

しかし其の教化の施設を完備し、其の聯絡提携を密接ならしむるの必要上、しばらく行政區劃を單位とし、其の系統に則り府縣より市町村に及び以て所謂教化網を大成し、區劃内を統ぶるに府縣聯合會を以てし、これを代表するに地方長官（若くは學務部長）を以てしたので、もと統制の便宜に基くものにして、決して官邊の仕事として一任し去つたと見るべきではない。教化の原動力は寧ろ民間にあつて、民間有志の活躍こそ、其の團體の内容を充實し、教化を有効ならしむる所以で、其の統制かくの如きを見て、其の重點を官邊に置き、民間各團體は他動的に其の指揮命令若くは授護補助の下に行動すべきものとし、徒らに其の指揮命令の不徹底を咎め、妄りに其の授護補助の足らざるをいふのみを知つて自奮自勵

の精神を缺如するに至つては、教化の目的は終に貫徹するの期なきに至るのである。

官憲依頼は由來邦人の通弊である。政治家に於ても、實業家に於ても、此弊は伏在する。これを以て獨り教化に従事する人々を咎むるのではないが、今日教化の對象とすべき詭激なる思想は敢然として官憲に反抗し、巧みに法網を濳りて其の細胞を扶殖し、時に幾多の犠牲を拂つても尙ほ辭せざるの意氣を以て侵蝕し來る。これに對して漫然官憲の援護を云爲し、何等自奮自勵の精神なくして能く對抗し得るか、教化は行政事務に忙殺せられつつある官吏の片手仕事の事業にあらずして、渾身の全精力をこれに集注するも尙ほ足らざる大事業である。況んや、官に職あるものは轉免あり異動あつて、後任者必ずしも前任者の意志を踏襲せざるのあるをや。内閣の施政は時に輕重の度を異にし地方行政も亦時に變易あるを免れず、教化は永遠の計にして常に不斷の努力を要する、變更あり異動あるものに重點を置いて何事かを爲し得べき。

かくいへばとて、吾等は決して教化に於ける官憲の力を輕視するものではない。邦人に官憲依頼の通弊あればある程、官憲の力の及ぼす所大なるを認むると共に、官に職ある人々の留意一段の深甚ならんことを望むのであるが、他に任掌あり職務あるの官吏に、獨り教化にのみ渾身の努力を望むは無理なる注文である。眞に身を挺してこれに當り得るはこれを自由なる立場に置かれたる民間有志の奮起を待つの外はない。官吏に移動あつても、民間有志には移動はない。此定着の地歩を占むる民間有志が、不斷の努力を盡くしてこそ、教化はその功を奏するので、一村其の人あれば一村潤ひ、一郷その人あれば一郷潤ふ。かくて教化の内容は充實して府縣より中央へと統制せられて舉國一致の運動たらしむることが出来るので、教化運動の成否は一に民間有志の肩上に繫かるといふも過言ではない。

教化運動は政治運動の如く花々しきものでもなければ、産業運動の如く利益を伴ふものでもない。しかし眞に國を憂へ世を憤るもの等閑視すべからざる大運動である。見よ、日々に侵蝕して國礎を動かさんとする思想は何人が掃盡し去るか、妄りに目前の享樂に酔ふて國家永遠の計を思はざる時弊は何人が覺醒し得るか、徒らに私利私慾を追ふて公利公益を度外する流風は何人が阻止し得るか、自暴自棄に陥らんとする現代人に一道の光明を與へ、これに勇往邁進の精神を鼓吹

するには抑も如何なる運動を要するか、教化の要今日より切なるはなくして、これに従事するの士、眞に寥々たるものは決して國家の慶事ではない。教化は何故に此の如く國視せられたのであらう。それは先にも云ふ如く政治運動の如く花々しからず、産業運動の如く利益の伴はざるにも由るが、從來の教化に従事するものが、傳統支持に汲々として之を以て教化の能事了れりとし、更に將來に向つて展開すべき方途を示さず、清新なるべき教化運動をして單に頑迷者流の過去追慕に基く回顧運動の如くに解せしむるに至たる罪も亦與つて大ならざるを得ない。教化は理想實現の努力であつて傳統支持の保守事業でなく、寧ろ時弊矯正の革新事業であり、指導啓發の進歩事業であり、過去追慕の回顧運動にあらずして將來を達觀するの前進運動である。此意義を闡明して民間有志の奮起を促し、清新の意氣と勇往の精神とを以て現代の難關を突破し教化の普及と徹底とを計るは今日の急務ではないか。

— (完) —

○將來の計として政治教育を興せ

私は日本の小學校の教科書を全部調べて見ましたが政治教育の部分が三行半である、これに反して英國の小學校の教科書を取よせて調べてみると、政治經濟に關する事柄が教科書のほとんど大部分を占めてゐる。即ち英國の子供は小學校において政治經濟その他公民に關する權利義務を完全に教へられて有權者となつて居る、ところが日本では公民の道德を育てるにしても餘り物尺が大きく實際にふれて居らぬ。況んや政治經濟に關する教育はほとんどないので、結局日本の小學校の政治教育といふことは全然認められてゐないやうな程度であるかと思ひます。小學校に向つて大々的に政治教育をする小學校の教員を政治動員して片つ端から先生に政治教育を與へ小學校は英國の例によつて教育書に政治經濟の事を大多數加へるといふやうなことにするか、結局名案を實行するといふ上に於いて可能性が伴ふものでないかと考へます。

(武藤氏の根本論の一節)



南洋に關する諸感想

平塚 五十嵐米八郎

○はしがき——南洋とは何處か——南洋の氣候と人文との關係

——南洋に於ける支那人の勢力——海外發展の地としての南洋

——南洋在留邦人の子弟教育に關する問題。

○は し が き

私は今回圖らずも官命により、本年六、七の兩月に亘り約二ヶ月間、所謂表南洋を駐足的に一巡して参りました。私自身としては再び同じコースを旅行するの機會は殆んど有り得ないと思ひましたので、素より短時日の皮相の觀察ではありませんが、毎日の見聞は細大漏さず、僞らず、飾らず、ノートに留めて置きました。歸來適々暑中休暇に際會し、小閑を得ましたので此れを整理しました所、四百字詰原稿紙約三百枚に亘りました。これを四十五項目に分類し、最後に附したのが此の南洋に關する諸感想であります。有體に言へば寧ろ、見聞其の儘の記録を發表し諸賢の直觀推想にお任せする方が面白いのであります。何分にも少し量が多過ぎ到底紙面が許しません。さりとて抄録は取捨上不自然に陥りますので何れ其の方は他日何等かの機會に何等かの方法に譲るとして、今回は此れで責の一端を塞がせて頂きます。何卒御諒承の程を……。

(九月一日震災記念日の夕誌す)

一、南洋とは何處か

南の國、南洋へ、と言ふ聲は、もう幾年もの前から聞く事であるが、其の南の國、南洋の概念は、どうも内容が漠然として居て、的確に把束されない憾みがある。或は、新嘉坡を中心に海峽殖民地から馬來半島一帯を指す者もあり、或は我が委任統治の下にあるミクロネシア群島が夫れだと考へて居る者もある。勿論是等は皆南洋の一部分に相違無いが、今少し劃切的に言ふならば、蘭領ジャバを中心とし、是れを取り巻く、蘭領東印度諸島一帯を南洋の天地と稱したいのである。そして其處には、二千年の歴史が儼として存在し現に一億圓に近い我が國の輸出品を消化し、又無限の寶庫を藏して居る土地であることを忘れてはなるまいと思ふ。

此の所謂南洋に就いては、昔から世界各國は種々異つた考へ方をして居た。

支那では古くから、南洋といふ熟語を用ひて居たが、是れは主として揚子江以南の支那海岸、即ち浙江、福建、廣東三省の沿海地方を指した者で、今日吾々の所謂南洋と思つて居る地方は、支那では、南海諸島と呼んで居たのである。

西洋諸國で、南洋といふ讀を用ひたのは、彼の有名なるマゼランが、千五百二十一年に南亞米利加の南端マゼラン海峽を廻航して、始めて太平洋に出て『靜穩な海』と言ふ意味から太平洋と命名したといふ事實は、人の能く熟知する所であるが、實はそれより八年前、彼のバルボアが中央亞米利加のグリエン地峽を横切つて、始めて太平洋の水に接し、右手に劍を握り、海水を截つて、スペイン王の名によつて余は此の大洋を占領し『南洋』と命名する。と宣言したのが抑々の始まりである。併し英米の地理書では何れも、マジエランの命名した太平洋で記述されて居るが、獨逸では、此の大洋を、バルボアの命名した通りゾイドジー即ち南洋と呼んで居る。

我が國で南洋といへば、我が委任統治の下にある裏南洋、即ちカロリン、マーシャル、マリアナの三群島を指すものが多い。

斯様に、支那で言ふ南洋と、スペイン獨逸あたりで言ふ南洋と、我が國で言ふ南洋とは其の内容に於いて皆多少の相違がある。或は此れを、歴史的に、地理的に、生物學的に、各此れを見る立ち場に依つては尙ほ見方の差違は生ずるであらう。然らば所謂南洋とは何處を指すのであらうか臺灣の南のフィリッピン群島、それからボルネオ・セレベス・モロツコス

群島・小スタン列島・ジャバ・スマトラ・馬來半島の地方は先づ今の所、一般に南洋と稱して異存の無い所であるが、更に我が委任統治の裏南洋を此れに入れ、或は又佛領インド支那、シヤムをも包含させ、若しくはもつとズツと大きく濠洲から英領の印度までも總稱する者もある。

要するに是等は、南洋を狹義に解し、廣義に解し、或は經濟的に解し、又は自分の都合の良い様に解するが爲めに、容易に一定の概念が得られない。従つて、南洋といふ語は實はまだ一定して居ないと言つて良からう。學者によつては、こんな曖昧な語は用ひない方がよいと言つて居る人もある。

其處で、一口に南洋視察と言つた所で、裏南洋を一巡して來ても南洋視察である。新嘉坡を中心に、馬來半島を一週して來ても立派な南洋視察である。臺灣に最も近いマニラに一寸寄つて歸つて來ても無論南洋を見學した事になる。併し何と言つても、赤道の南北に亘つて散在し、我が國の總面積の三倍に餘る蘭領東印度諸島、並に馬來半島が南洋の主體であると思ふ。初め南洋視察を命せられ時、多くの人は、裏南洋を視察するものと考へられて態々紹介状などを送つて呉れた親切な人もあつた。

裏南洋は我が國に取つては、軍事上或は交通上には重要な所であらうが、面積は、總計しても僅々約百四十方里、佐賀縣の面積と伯仲する位の都で、小さな島々が東西一千餘里、南北五百餘里の廣き海面に亘つて飛石の如くに散在するに過ぎないのである。併し視察の價値は充分にあり、興味の多い方面には違ひ無いが、交通の便が思ふ様で無く、一航海遅れると一ヶ月も待たねば便船が無いといふ様な關係から、日子が許さず、今回の視察には遺憾ながら此の方面は割愛した。そして臺灣を振出しに、フヒリツピン・ボルネオの一部ジャバ島、馬來半島を一巡して、赤道の南北に亘つて居る。所謂表南洋を大觀して來たのである。

二、南洋の氣候と人文との關係

南洋に就いて、我が國人に最も誤解されて居る事は其の氣候である。南洋と言へば直ちに赤道直下、炎熱燒くが如き地

と誰しも想像するのであるが、此れは熱帯とか、赤道とか聞くからに酷熱を想はせる様な言葉に捉えられ過ぎる結果で、實際に旅行して見ると、其の言葉が當つて居ないのに驚くのである。

トコフジの主人澤部氏の言はれたやうに、南洋は實際來て土地を踏んで見れば、本當の事は解らない。日中汽車で赤道直下の長い平原を旅行した人は、暑さに堪へられず、南洋は炎熱燒くが如き地だと言ふであらう。又トサリやガローあたりの高地で朝夕の涼風に、吹かれながらベランダで書見のみして居た人は、南洋は、却て内地よりも涼しいといふであらう。實際は一度經驗して見なくては解らないのである。併し兎に角、太陽を頭上に仰ぐ所謂赤道直下、熱帯の地であるから氣温の高いのは當然であるが、同じ熱帯でも英領印度などは全然趣を異にしてゐる。英領印度の夏季は、華氏の百十四五度から時には百二十五度にも達するので、それこそ實に炎熱燒くが如き、その者であるが、此の蘭領東印度並に馬來半島は幸に海洋の影響によつて緩和されるから、暑いと言つても、それは凌ぎよい暑さで何處の平均温度も百度を越す所は無いのである。

蘭領東印度の中でも、ジャバ・スマトラの如きは火山島で、島内に數多の火山が聳え、高山が到る所に在つて、其高さに応じて氣候の差違がある。海岸に近い平地では相當高い温度でも、高地に入れば、海拔百米毎に温度は華氏十度宛下降して行く。随つてスラバヤ・バタビヤの様な平地では年中、夏の所もあり、バンドンガローの様な高地では年中、春か秋の様な所もあり、トサリや大谷氏、佐藤氏の農園地方の様には年中、避暑にでも行つて居る様な氣分の所もある。それに、南洋一帯に亘つて絶えず、微風が吹渡つて氣候を和らげ、殊に日に一、二回はスニールが沛然としてやつて來るので、苦熱は消され、道路は綺麗に洗はれ、樹木の緑は一段と鮮かさを増し、爽快言ふばかり無しである。

併し年二回非常に暑苦しい時期がある。それはモンスーンの變り目、即ち四月と十月とである。無風で曇天が続き、如何にも蒸し暑く凌ぎ悪い。このモンスーンは赤道を界として北緯は十一月から三月迄東北風が吹き、南緯は西北風が吹く反對に五月から九月までは北緯は西南風が吹き、南緯は東南風が吹くので、此の二つの正反對に吹くモンスーンの方向の

變り目が即ち四月と十月の變風期なのである。

尙ほ此の外、北半球には颶風と稱して、或る季節には一定の場所に發生する暴風があるが、これは北緯十五度以北に限られた現象で、南洋地方には絶對に無い。南洋は颶風には、全くの安全地帯である。

モンスーンが地形に伴つて或は雨を齎し、或は乾燥を與へ、茲に南洋地方に、乾季と、濕季とを生ずるのである。此の二期の最も明かに分れて居るのはジャバ及び其の東方諸島である。馬來半島やスマトラ東岸洲は、大體、二期に分れて居ても年中大差無く降雨があるので、従つて、甘蔗の如く、或る期間は乾燥して糖分の充實を要する作物の栽培は東ジャバの氣候が理想的であり、年中適度の濕氣を要するゴム樹の如き者の栽培は、馬來半島の氣候が適して居る。

斯様に南洋地方は、日光と水分との供給が豊富であるから、植物の生育繁茂は實に素晴らしい者で僅か數年で我國の數十年以上を経過した樹木位に伸びる。従つて樹木には年輪と認むべき者が無い。

スラバヤの三井銀行支店長岩瀬氏を訪問した時、三年前に氏自ら庭前に植えられたといふパイヤを見たが、最う果實が累累と重り合つて居た。此れを見ても南洋の果實は植えてさへ置けば、如何なる種類の者でも、年中生育し、結實し、人の口に上ることが想はれたのである。

自動車で僅か一、二時間で過ぎる距離の所だつたが車中から見た水田の奇觀、それは見渡す限り廣々とした田の面に、今盛んに田植をして居るのがあるかと思へば其の傍には、最う稲が結實して穂が垂れ下がつて居る。そうかと思へば、穂を摘み取つた跡も見える。一方にはまだ水田の儘の所も有るといふ風で、我が國で言へば春夏秋冬が一所にやつて來た様な形で、一年中播種も收穫も隨意なのである。

南洋の土人が、斯かる氣候に恵まれ、斯かる天恵に浴し、何一つ不足不自由も無く生活出來るといふのは誠に結構な事である。彼等は一枚のサロンで一年中を過すことが出來、住む家は極めて簡素で足り、食べるには一日三、四十錢の收入で一家族を支へ得られる。こんな簡易な生活は到底他には見られないであらう。併しながら、年中常夏の國で四季の區

別が無いといふ事は、人間の精神氣力の上に大なる影響を與へるもので、彼等の精神には緊張味が無い。且つ餘りに天恵に裕かであることは勤勉努力の氣分を消磨させ、遂には頭腦の活動も鈍くなり、獨立自尊の精神は雲消し全く意氣地の無い人間と成つてしまつたのである。

ジャバ人などには毛頭貯蓄心は無い。働いた金は皆享樂の爲めに費消してしまふ。相當勤勉ではあるが、積極的に勞働し、企畫的に産を成さうなどいふ考へは無い。働いても、遊んで居ても生きて行かれるからである。ジャバ人が大に自覺して、一大團結をなし、和蘭人の手から離れて、ジャバ人のジャバとして國運を發展させようなどいふ考へは彼等の境遇から想像しても到底出來さうも無い事である。併し斯かることは却つて彼等の不幸を招致する結果に陥るかも知れない。そうして彼等は又誠に柔順、それこそ恰も羊の様な民族である。

彼等も亦、吾々日本民族の祖先と、曾ては別に大差は無かつたのであらうが、一は熱帯の地に住んで天恵に酔ひ、一は濕帯の地に住んで寒暑に堪へ、物資の欠乏にも打克ち、遂に今日の發展を來したのである。氣候が直接間接に人生に及ぼす影響の大なることは想像に餘りあることである。

三、南洋に於ける支那人の勢力

南洋を語るには、先づ支那人の勢力を見通す事は出來ない。尤も支那人は單に南洋のみでは無く今や全世界に溢れ出して居る。其數は五、六百萬の分布を見る有様である。彼等は別に本國政府の保護も受けず、獎勵も無く、全くの獨力で天下到る處、恰も河水の低きに就くが如くに流れて行く、人爲的に制限を設けないならば世界は殆ど支那人の住居となるであらうとさへ言はれてゐる。

現今南洋に於ける支那人は三百五十萬を下らないであらうと見られてゐる。是等の支那人は主に、廣東、福建、海南島邊の南方支那人であつて、始めて彼等が南洋方面に現はれたのは隨分と古い事である。一體、廣東、福建、海南の地方は天恵頗る菲薄であるのに人口は極めて稠密で、生活難の結果、必然的に海外移住の風を生ずる様になつたのである。尙ほ

支那の二大民族の争ひは東洋史の主要なる部分となつて興亡數千年に及んで居るのであるが、彼の元が宋を亡ぼし、清が明を亡ぼし、南人が北人に壓迫された度毎に、南人は益々南進して南洋方面に自由な活動の天地を求めたのは争はれない事實である。殊に南洋一帯の地は、距離からは最も近く、且南支那海、シヤム灣は、海上波濤かな所であり、又ジャバ海は赤道の南北に亘つて熱帯無風帯で有り、これも波靜かなること鏡の如くで、其間には大小幾多の島嶼が基布點在して居るので、航海術の未だ開けなかつた昔にあつても短舟に棹した程度で海外渡航に困難で無かつたことは、歴史的にも地理的にも立證されてゐる。況んや、支那人の勤勞、忍耐、強健の體軀は能く赤道直下熱湯の地、瘴癘蠻雨も克服して遂に今日の發展の基礎を築いたのである。曾て新嘉坡の米國領事は支那人を批評して曰く。

『支那人が本國から來る時は、單褐を身に纏ひ天地を寢食とする堅忍と、竹頭木屑を著ふるの勤儉とを唯一の資本として此の競争壇上に現はれる。彼等の採掘した錫は遠くアメリカに輸出され鐵力の罐と化して再び此の地に戻つて來る。此の地で廢罐となつたものを彼等は又買ひ集めて、之れから新に或る種の日用品を製し、尙ほ満足しないで更に其の罐屑を集めてこれを同胞の齒科醫に供給し、是れから銀色の義齒が出来る。凡て天地の間に支那人の存する所、廢物は無い。廢物利用に巧みな支那人が世界の廢物として劣敗する理由は無い。無より有を生ぜずとは世界の眞理であるが、若し夫れ、無から有を生ずるの理論を發見せんとする好事者があるならば、余は無一物の支那人が南洋の富豪と成つた實例を澤山舉げて、能く之れに見做へと告げたい』と、皮肉の様な言ではあるが穿ち得た批評ではあるまいか。

今日此の驚くべき支那人の發展の経路には二種の道程がある。一は海外各地に先住する親戚又は同郷人の呼び寄せに依るものと、一は客頭及洋行の誘致に依るものである。彼等は最初は被傭雜役が主で、ゴム園、農園、鑛山等、何の勞働でも厭はず、漸時小作人から地主に、又は行商人から小賣商人に、仲買人から卸商、貿易商にと漸進的に發展し遂に巨萬の富を擁する迄に至るのである。彼等は何れも其の通有性たる低級の生活に堪へ、低利に甘んじ致々として能く環境と相和し、歩一步と富力を積んで行く。其の根氣は實に驚くべき者で、今や百萬、數百萬の富豪は到る處に散在する様になつ

た。スマランの建源號の如きは其の資産數千萬と稱せられて居る。勿論彼等の中にも惡誘致者に欺瞞されて、奴隸同様に酷使され、國元への送金も出來ず、貯蓄などは思ひも寄らず、空しく異郷の空に屍を曝すの徒も相當にあることも認めねばならぬ。客頭といふのは、海外の事情に精通した。謂はゞ、移民ブローカーの様な者で、主に自分と同郷の者を勧めて移住せしめるのである。彼等は、乗船地、上陸地の移民宿屋、又は他の客頭と巧に聯絡を保つて居り、中には惡辣な手段を弄する不良客頭も相當にあるとの事である。

洋行誘致といふのは外國商館又は支那商人によつて建てられた移民會社で、外人と特約して移民を海外に移送するのである。今南洋視察に當り巡遊したる各地の支那人發展の實狀を擧げて見よう。

フィリッピンに於ける支那人は在留外人八萬五、六千人中四萬二千人の多きを占めて居る。フィリッピンではスペイン時代も今日の米領になつてからも、支那人に對しては或る制限を設けて移民を監視して居るにも拘はらず、益々地盤を固めて行く状態である。マニラの商業のセンターであるエスコルタ街、或はロザリオ街は歐米大商店の櫛比して居る所であるが、支那人の大商店が之れと軒を並べて對峙し立派な支那街を形成して居る。其他土人街にも多數雜居して小賣商を經營して居るのである。

蘭領インド諸島に於ける支那人は約八十萬人と稱せられ、尙ほ續々として増加の傾向があるが、中でもジャバ島が最も多く約五十萬人を占めて居る。次いでボルネオ・スマトラの順に多い。ジャバに在る支那人は他の地方と異つて勞働者は居ない。此れは、最近、勞働者の入國は禁ぜられたし、それに土地は狹隘であり、且つジャバ人が低い勞銀で勤勉に働いて、支那人勞働者の入國を拒止して居る。ジャバで百五十ギルダの高い入國税を課するのは、下級勞働者の入國を防ぐと同時にジャバ土人保護の政策である。

蘭領印度は和蘭人を始め、白人、日本人、土人の貴族土豪といふ様な上流社會と、一般土人の下層社會とに大體別れて居る。肝腎な中流社會が無い。畢竟支那人が此の中流社會の位置にあつて其の役目を演じて居る。其の生活習慣總べて他

の人種と異つて居るが、中間商人としての彼等の勢力は實に侮るべからざる者である。歐洲商人が土人の作つた農産物の輸出を營む時には、必ず支那人の仲介を経て内地から産物を集めねばならぬ。又歐洲からの輸入品を賣捌くにも、大部分支那人問屋の手を経て内地到る所の土人に、小賣商人に又は消費者に頒賣されるのである。ジャバに於ける中間商人としての支那人の地位は誠に偉大な者であつて、現在アラビヤ人と競争の状態である。

通商貿易に就いても支那人は重要な地位を占めて居るが、綿、綿布、茶、規那等の直輸出入取引に至つては、到底、イギリス、和蘭、日本の大會社には及ばないのである。要するに支那人の實勢力は、通商貿易の方面では無くて寧ろ、問屋乃至小賣商の方面に發展して居るのである。

近年蘭領インドに於ける是等の支那人は堅實なる發展の途にあつて、機會ある毎に一致團結して、法律上や經濟上の地歩の改善に努めて居る。

馬來半島に於ける支那人活動の状況を見るに此れは又一層勢力ある者である。

馬來半島は赤道直下に位置し、瘴癘の地として人口稀薄な所であつたが、一度ユニオンジャツクの旗が、其の南端新嘉坡に飄つて以來、英人は盛んに支那人の移民を奨勵して、鐵道の敷設を始め、錫の採掘や、ゴム事業の開拓に、あらゆる勞役に當らしめた結果、彼等は縁を求め傳手を尋ねて陸續として移民し、今や半島總人口の四割五分を占めるの状況に達した。彼等は到る所に支那人街を形成し、風俗習慣、弔祭等、皆本國の者を墨守し式祭目などは全く支那本國に在ると同じ感がある。今日では、耕地、鑛山、船舶、車夫家庭労働者等、あらゆる勞働方面に亘つて、支那人の入り込まざる所は無い。これは南洋各地共さうであるが、殊に大銀行大會社の支店、代理店等で現金を取扱ふキャウツチは皆支那人を使用して居るのである。

又海峽殖民地では法律で、彼等を生れながらの英國民として遇し、官吏として政廳にも裁判所にも、郵便局にも任用もされ、又手代となり、番頭となり、或は辯護士の傭人となる事も出来るので、支那人の勢力は殆んど半島を風靡して居る

の概がある。斯くて英政廳でも多數人民の統御上、支那人保護局を設置し支那官吏を採用する外行政委員にも一、二支那人有力者を入れて審議に與らしめてゐる。又支那の大祭日は特に公休日として、一般も亦休業するといふ風で、支那人の勢力は萬般の方面に浸潤して又動かす事の出来ぬ状態である。されば彼等の富裕なるものは、新嘉坡、ピナン・イツポ・太平邊に、宏大なる別荘を營んで、王侯の如き豪華な生活をして居る者が多々ある。コランボからピナンに行く汽車の中で彼等の幾組かに出遭つたが、身輕な服装で、風姿の極めて上品な支那婦人が、如何にも鷹揚な態度で應待して居るのには羨ましい程であつた。これは支那人の、數に於て優越して居ると三代四代といふ長いジェネレーションの力の然らしめた所ではあらうが、馬來半島在住の邦人の勢力がこれに比肩すべくも無いのは、移民年數の未だ半世紀にも達しないのと、其の數に於て比較にならないのとで誠に止むを得ないとしても何となく、一種の心細さを感じずには居られなかつた其他シヤム、佛領印度支那、ビルマも皆支那人が經濟的に勢力を振つて居るのである。

茲に南洋在留邦人が彼等支那人から受ける打撃の中で甚だ痛心に堪へぬ事件がある。所謂排日ボイコットがそれで、今日迄に、何回となく行はれたさうである。一度ボイコットが突發すると、苟も日本製品である限り、日本商人の手を経た物である以上、彼等は絶対に手を觸れぬ。既に注文した者も取消す、一旦定めた契約も破棄する。何物も買ひもせねば賣りもせず、貸しもせねば借りもせぬ。平素親密にして居た間柄でも口も利かぬ。時としては永年の借家からさへ追ひ立てられる甚しきに至つては日本人とあれば醫者にも懸らぬ。別に生命を脅かすといふ様な事は敢て爲さないが、經濟的には全く斷交されて仕舞ふ。勢力が及ばないから遺憾ながら如何とも對策が無い。全くの窮地に陥つて仕舞ふ。だが、一方支那人も亦此のボイコットによつて、日本品を取扱つて居る者は相當の損失を自ら招いてゐる。やれ日本品に對する罰金だとか、何々事件の義捐金だとか、南方政府支持の爲めの寄附金だとかいつて、ボイコットのブローカーの様な者の爲めに始終絞られてゐる。中には其の爲めに産を倒す者さへあるので結極、相方共、損失共倒れの憂き目を見るの結果に歸着するのである。邦人は此のボイコットの爲めに却て印度、亞弗利加方面に、貿易上の新發展を爲したといふ様な所謂禍を轉

じて福となした奇現象もあるが、併し何と言つても南洋に於ける經濟的發展は、日支の提携共存共榮に俟たなければならぬ。誠に本國を離れて海外に在る支那人は特に自己意識が鞏固である。彼等に取つては爭亂常無き自分の國家など殆ど頼みにはならないのである。頼む所は支那民族としての團結である。そして最後の頼みは自分のポケットマネーである。政治的地位が得られなくとも、一等國民として取扱はれなくとも、體面を汚されても、辱しめを受けても、省る所でない。そして瘴癘蠻雨の地でも、灼熱煙塵の巷でも、斧越の入りぬジャングルでも、金さへあれば生活が出来ると思つて居る彼等は行く所として可ならざるなく何處にでも、永住の策を建て、孜孜として勤み、役々として勞し、所謂木屑竹片を積んで着々産を爲して行くのである。そして天稟的に、語學の才と、商利の巧に長じて居る彼等は獨り南洋と言はず、今や全世界に潮の如く押寄せて居る。怖るべきかな支那人。

將來世界經濟界の覇權を握るものは、印度のチツテ族でも無くユダヤ人でも無く、實に支那人でなければならぬ。

四、海外發展の地としての南洋

現今、我が國の經濟界が不況沈滞の状態にあり、思想界の方面も亦憂慮すべき傾向にあることは誠に憂慮すべきことである。之れを一般に世界的現象であるとして等閑に附しては居られない。此れが原因に就いては戰時好況の反動も勿論あるが、それよりも根本の問題は、我が國土が狭少で天然自然の富源に乏しく、而かも人口の増加は年々百萬の多きを算し爲めに生活は不安となり、就職は困難となり、失業者は續出する、従つて國民の思想は悪化する。此れを解決するにはどうしても、我が國民が大に海外に發展して、國運を轉換し産業を振興し、人口の調節を圖る事が今日の急務であると思ふ。

海外發展の地としては蒙古、滿洲、南米、南洋、南阿等、多々あるが、歴史上から見ても地理上から見ても、又經濟上から見ても南洋方面が最も有望なものと信ぜられるのである。

南米の移民に就いては政府も大に奨勵し、府縣當局も亦盛んに宣傳に努められた結果、其の航路は一航海毎に、行き詰れる我が國土に戀々とせず、力と汗とで新生命を拓かうとする有爲の士を滿載して行くといふ状態で、今やアマゾン流域

無限の資源を藏する廣大無邊の新天地には既に十數萬の邦人が額に汗し營々として寶庫の鍵を開くべく努力して居る事は我が國の現状から見ても誠に快心の至りであるのみならず、尙ほ益々盛んならしめたく希望するのであるが、私は此の南米にも増して一層、南洋の天地に多くの期待を持つ者である。

南洋には廣大無限の土地が残されてゐて、尙ほ人口を容るゝに充分なる餘裕がある。

ジャバは和蘭が最も力を入れて開拓した所で、人口密度も世界第一位で、最早や開拓の餘地は無いが、同じ蘭領でも、スマトラ・ボルネオ・セレベス等は、我が國本土の數倍に餘る土地を有して、而かも人口稀薄である上に天産物原料品は寧ろ其の多きに苦しむといふ状態である。従つて本國和蘭の小を以てしては到底充分なる開拓は出来ず、自然外來の投資投勞を待つて居るのである。其の上和蘭は昔からの關係上、我が國に好意を持ち、我が國人の來つて資を投じ或は開拓の力を致すのを大に歓迎して居る状態である。

馬來半島、フィリッピン島も程度の差こそあれ我が國民の發展には尙ほ多くの餘裕があり、且つ彼の米國濠洲の様に、我が國民の入國を拒む様な事は絶対に無いのである。

又南洋の土人は、或る一、二の種族を除けば、極めて柔順で、日本人といへば、一等國民として厚く尊敬して呉れるから、邦人は思ふ存分に活動が出来るのである。世界の中恐らく活動の舞臺として南洋程、我が國人に取つて、肩身の廣い愉快な天地は他に無いであらう。氣候風土は南米の様に年中春秋の様な所と異つて、常夏の國、暑さは烈しいにしても前に述べた様な地理的關係から、日本人の活動に不適當な地では無いのである。

尙ほ南洋は多く火山島であり、地貌も殆んど我が國と同じく、到る處山紫水明の地である。椰子の葉を除きさへすれば日本内地を旅行して居ると同一氣分である。土人の風俗習慣も亦我が國に似通つた點が多いので、別に遠い國へ行つたとか、天涯孤客の思ひなどは起らない、それに近來都市の施設や、衛生設備に科學文明、機械文明を遺憾無く應用して極めて文化的である。熱帯性の病氣など現今では少しも心配は入らぬ。マラリヤは熱帯に最も流行する風土病であるが、今

回の旅行に際しても、規那丸などの藥品を携帯し、規那の産地に規那丸を携ふるの迂を笑はれたのであつた。火山灰の積層から成る自然の肥土は、有用植物のゴム、甘蔗、煙草、麻、茶、規那等の栽培に好適である。又鑛産が實に豊富で、石炭、石油、錫、鐵の類が埋藏されて居て、未だに手の著けられて無い所が多い。南洋が世界の寶庫、世界の樂園と稱へられて居るのは決して名實相反する者で無いのである。

次に南洋を交通關係から見ると、我が國から最も近い巨離にある。歴史的に見ても既に數百年の昔に於て、吾等の祖先が此の地に活動した跡が歴然として殘されて居る。考へて見ると、南米へは五十日の航程を要するのに南洋へは僅々二週日で足りる。殊に最近、石原産業の進出に依つて、各汽船會社が競争の形となり互に優秀船を以て巨離の短縮を圖つて居るから、將來は十日或は一週間の巨離に迄短縮されるであらう。さうなれば全く我が臺灣の延長同様の者となつて仕舞ふ。此の如く如何なる方面から見ても我が國は、南洋方面を經濟的領土とし活動進展の舞臺として、今日の此の國情救済の資とすべきものである事を堅く信ずるのである。

總て海外發展の方策は、國家が保護獎勵の任に當るべきは勿論、大實業家が之れに投資すべきことも條件の一であるが私は同時に我が國男女青年の海外發展的氣風の振作が一層必要であることを切に思ふのである。

由來我が國民は英國民と同じく海洋的國民で、昔は旺盛なる意氣で支那に南洋に到る所、横行濶歩した者である。然るに徳川三百年の鎖國政策は、國民の意氣を沈滞消沈せしめ、終に開國と成つても其の情性は退嬰主義に傾き海外移住を厭ふの風を馴致した。國土、殊に世界に勝れた我が國土に執着するの念は、愛國心といふ點から見ても極めて大切な事ではあるが、此の人口過剰な、狭少な、そして行き詰つた状態にある本國にばかり躊躇して、足一歩も海外に出づるを欲しない者ばかりであつたならば、我が國家の將來は果してどうなるであらうか。

流石に英國は『我が領土に太陽の没すること無し』と豪語して居るだけであつて、彼に學ぶべき點があると思ふ。英國では青年時代に必ず一度は其の殖民地に渡つて具さに海外生活の經驗を積むのである。そして殖民地歸りの青年は本國で大に尊敬されるさうである。本國に五、六十倍の面積を殖民地として居る和蘭も亦然りである。翻つて思ふに我が國は果してどうであらうか。海外に赴く者は、多くは内地の喰ひ詰め者か、或は内地には居られないといふ様な事情の下にある者。さういふ徒輩が多かつた爲めか、南米歸り、南洋歸り、布哇出稼ぎ、是等はどれも餘り尊敬されない概念の様であつた。近年は此の風が少くなつて、有爲の材と進取の氣象に富んだ教養ある青年が、どし／＼渡航する傾向にあることは誠に結構な事である。

今回巡歴した。南洋到る所の邦人が、一般的に見ても何れも堅實なる向上發展を遂げつゝある實際に直面して衷心、心強く又愉快に感じたのである。只惜むらくは之れに伴ふ女性移民の尠い事が恨事であつた。

今回の視察には、女學校長としての立ち場から、特に我が國女性の、堅實なる海外活動を觀察したいと思つたのであるが、殆ど其の機會は得られなかつた。私は思ふ。凡そ一事を完ふするには、男女相倚り相助けて一體となつて當らなければ正しい發展は出來ぬ。そうで無いと必ず何處かに破綻を生ずる。殊に海外萬里の異域にあつて植民事業に携はる如きは到底男子のみの活動で堪ふべきで無い女性内助の力を藉りねばならぬ。時には慰安の要も生ずるであらう。畢竟、男子單獨の出稼ぎで無く、一家眷族の家庭的殖民でなければ其處に永遠性を持たぬことになる。此の點に於て、女學校では一層海外發展的の教養を必要とする事を痛感したのである。彼地に於ても從來教育者の視察は數多く有つたが、女子教育に携はる者が視察に見えた事は未だ會て無いといふので興味を以て迎へられたのみならず、大に歡待されたのであるが差當り必要に迫られて居る。教養ある、堅實なる、そして強壯なる婦人の渡航周旋に就いて熱心なる依頼を受けたのである。

海外渡航者に取つて最も必要な條件は、身體の強健と、不屈不撓の精神とである。足一歩郷關を辭すれば恃む所は自己以外に何者も無い。僅か二ヶ月ばかりの旅行でありながら痛切に感じた事は、一寸熱が出たり、軽い下痢を起したりしても何だか不安で意氣が消沈し、視察見學の勇氣も何も無くなつて來る。況して其の地に永住し大に畫策しようとする者に取つては何をおいても健康第一が根本の必要條件である。

南米移民が其の航路中、熱帯を通過し、印度洋を横ぎり、アフリカに近い邊に至ると、酷熱の爲め、英志を抱いて空しく不歸の客となるものが往々あるさうである。中には又、斯ういふ光景を見て、急に厭やに成り、内地へ歸りたいなど、船長を困らせる徒輩も多いとか聞いた。斯ういふ身體虚弱な者や、薄志弱行の徒は、先づ強い信念と、充分なる自覺の出來ない限り、止めた方が得策であらう。話が横道に逸れたけれども、要するに南洋方面が海外發展の最も有望地であることを力説する者である。

五、南洋在留邦人の子弟教育に關する問題

我が子を教育するのは親の義務である。否、義務など、堅苦しく言はずとも、自然の情愛である。又日本人である以上は假令、海外萬里の異域に在つても、我が子を日本人として教育したいのは當然の念願である。一家を擧げて海外に活動して居る我が同胞が『如何にして我が子を教育すべきか』に就いて苦慮して居る状態は、内地人の想像を許さぬ當面の大問題である。

今回視察した中で、マニラ・スラバヤ・バタビヤ・新嘉坡・香港・上海には夫々在外指定小學校の設置があり、在留邦人の大多數も是等都會を中心に活動して居るので、子供を教育する便宜も得られて居るが、南洋に於ける都會を離れたる地方の状態は誠に悲惨である。邦人の分布が、ゴム園、椰子園、農園、鑛山、漁業等其の性質上、都會中心で無く、多くは山間僻地である關係から、どうも就學の便宜に苦しんでゐる。子供を教育しようとするには勢ひ前記の學校所在地迄遣らねばならぬ。斯ういふ不便を補ふ爲めに指定小學校には寄宿舎の設けられてある所もあり、又校長個人が好意的にホームを設けて、是等の子弟を預つて教育して居る所もある。併し小學校程度の子供を、親の膝下から手放すことにも不自然があり、又子供一人を托するに要する費用は一ヶ月二十圓から三十圓程度である。子供が二人も三人もあつては大變な經費である。其れだけの餘裕の無い人は勢ひ子供が可愛さうであつても放任するより外は無い。子供は土人の子供相手に遊んで居るのであるから、どうも良い影響感化は受け難い。親はこれを見て果して如何な感があるであらうか。此等が原因

となつて始めの雄志も挫け、折角築き上げた永年の基礎も事業も、或は棄て、或は他に譲つて、都會地に移つたり内地に歸還したりせねばならぬ例は多々あるのである。

海外活動者に、子弟の教育に就いて何等憂慮する所無からしめ、安んじて事業に専念させる爲めには、教育機關をもつと多く整備せねばならぬのであるが、學校を設置するといふことはさう簡單には行かない。文部省、外務省等の交渉關係もあり、莫大の經費も要するし、なか／＼困難な事情が伴ふ。外務省の補助金もあるが、現今の緊縮時代では、それも減額の一方のみで餘り頼みにもならず、其處で學校經費の大部分は日本人會から出るのであるが、此の不況時代に、何處の日本人會も小學校費に、總豫算の半分は取られてゐる有様で、此の上校舎を擴張したり、寄宿舎を増設したりすることは至難の状態にある。況んや百人二百人の小さな日本人會の手で新に校舎を設置する事など先づ不可能の問題である。其處で内地の組合立式に、幾つかの日本人會が聯合して學校を設置するか、或は現在、在外指定校の設置されてある地方の日本人會に學校の部分だけ、是等が加入して其の學校や寄宿舎を擴張し内容を充實させるといふ様な方法もあるが、それは負擔金や、距離や、位置などに就いて多少の犠牲が伴ふのは止むを得ない事であらう。

子供を遠く寄宿舎に送つて勉強させるといふ事は一面氣の毒の様であるが、教師其の人を得れば、家庭に代つて充分に教養が出来るので、現に立派に寄宿舎で教育が行はれてゐて、遠隔の父兄が感謝してゐる實際も目撃して來たのである。又經費も子供の數が多くなれば自然負擔は減少する譯である。

内地の吾々でも家庭で子供を教育するといふ事は、仲々困難な事であるが、教師其の人を得れば、家庭に代つて充分に迄は到底見らるべき筈が無い。さうかと言つて使用人であるバブー(土人の婦人)や、アヤ(支那の婦人)任せではどうせ碌な事は覺えず、馬來語は達者になつても、大切な日本語は解らない。親として其の子が、我が言葉が解らず、國語が出來ないのを見る程、痛ましいことは無いのである。

次に小學校の内容に就いて観ると、先づ教師は態々海外に出て大に遣つて見ようといふ位の人達であるから、識見も

あり、經驗もあり、又經營の方にも富み、有爲の人物が多いのは力強く感じた所であるが、遺憾ながら其の設備は完全では無い。又實際の教授は、内地と同じ國定教科書を使用してゐるが、環境の全然異つた土地で、此の教科書の内容を充分に理解させようとして如何に教師が苦心努力して居るかは觀て居ても氣の毒な程であつた。然らば、斯く迄に骨を折り、無理算段をしても指定小學校を設ける所以は何であるか。マニラにはアメリカの學校があり、蘭領印度諸島には蘭人學校があり、馬來半島には英語學校がある。何れも彼等は金錢を惜しまず投じた立派な完備した學校である。此等の地方に活動してゐる邦人は其の學校に入れて教育する方が經濟的でもあり、外人も其れを喜ぶのであるが、之れでは語學や、知識技能の方面には勝れた點が出来ても、肝心の國語の力は無くなる。本國の言語文字を通して國民精神を陶冶することが出来ない。これでは日本人として甚だ遺憾な事である。國家が在外指定學校を認可し、邦人が希つて子供を入學させようとする理由は此處に存する。

海外に發展してゐる邦人は、吾々の豫想以上に國家觀念が強いことの實際に遭遇して大に意を強うした。小學校に於ても國民思想の涵養には全力を注いで居る。朝夕、母國に向つて最敬禮を行はしめたり、國旗に對しては常に敬意を拂はしめたりして居る。尙ほ又多くの小學校は其の創立、増改築等が、皆我が皇室の御慶事に基いて行はれてある事なども常に兒童に對して善い教訓を與へて居るものと思はれるのである。

民族あつて國家あるを知らざるかに思はれて居る支那人でさへ、數百萬の南洋在留支那人に對し「故國勿忘」と警告し如何に海外に散點しても決して支那語を捨てるやうな事があつてはならぬと相戒めて居る。南洋到る處、彼等は外人の學校も三舍を避けるやうな宏壯な校舎を建て、居る。

偕て我が在留邦人中には、將來、功成つて故國に歸還の希望を抱く者と、永遠に彼の地に定住の目的、運命にある者があるが、そして前者の數が、大部分を占めて居る現狀である。従つて、殖民地教育の主義方針も大體内地の標準で進むべき者と思はれるが、後者に取つては其の上に海外事情に適應すべき策を講ずべきであると思ふ。それには、英語蘭語の

時數を多くし、卒業後能く環境に應じて活動すべき素地を作る事が必要であらう。又志望に依つては、英領、蘭領、米領或はその本國に送つて高等教育を受けしむるも宜からう、他日或は醫士となり、辯護士となり、南洋の天地に活躍することとは彼等の自由なのである。我が指定小學校が將來設備も完備した曉には必ず此の問題が生じて來るに相違無い。即ち小學校教育を第一種、第二種といふ様に區別して、夫々適應の教育を施す様になることを希望するのである。

殖民地の教育方針を、内地主義にすべきか、植民地主義にすべきか、それとも折衷主義にすべきかの問題は、此の方法で自然解決されるであらう。さりながら、斯かる問題が唯理論だけでは通らぬ事も豫め覺悟せねばならぬ。中等教育問題に就いて一言を費さう。遺憾ながら南洋方面には中等教育機關が一つも無い。従つて在留邦人が子弟に中等教育を施さうとするならば、内地まで歸還せしめねばならぬ。それが爲めに家族中の誰か犠牲となるか、又は親戚知己を煩はさねばならぬといふ悲惨な現狀である。ジャバならばバンドン・フリリツピンならばバギオあたりの海拔二千尺から五千尺の高地にある都會で、而かも交通の便利な地に、中等學校を設けこれに寄宿舎を附設して適切なる教育を施すの途が開かれるならば、邦人は、如何に安んじて植民事業に終生を捧げることが出来るであらうか。

上海には既に居留民團で内地と同程度の高等女學校が設置されており、實業學校もあり中學校も目下設置中である。上海既に然り、此の邊よりも一層必要を認められる。南洋方面が、如上の状態にあることは誠に痛嘆に堪へぬのである。言ふまでも無く、經費關係に支配されての結果である。資金さへあれば、必要な機關は必ず出來る筈である。現今の不況時代は暫く措くとしても近き將來に於て必ず實現されんことを希望して止まないものである。それには外務、文部兩省の積極的幫助も必要であるが、富豪や實業家の肝煎や盡力に俟たねばならぬ點が多いと思ふ。如何なる事業も、其の創設の當初に於ては、何等かの犠牲は止むを得ない事である。植民事業は、單に物質的方面のみで達成さるべき者では無い。精神的方面の之れに伴ふのでなければ健全なるものとは言はれない。信念を得る爲めには教會、寺院、文化の中心としては學校此の二つは實に植民事業の基礎を爲す者である歐米先進國の植民政策が如實に此れを語つて居る。

冀はくは國を憂ふの士は、活眼を開いて國勢の推移を達觀し國家百年の大計に嚮つて協心膂力を致したいものである。

初 秋

Y S 生

大けやき梢に風のさわたちて

夕陽あかくと蝸のなく

蟬吟をさまりて

初秋訪る

陵上の孤松は

晩鐘の名残をこめ

廬山の夕照は

長路の愁を慰むるに

よしなし



けに人生五十年 青陽の春はいつく

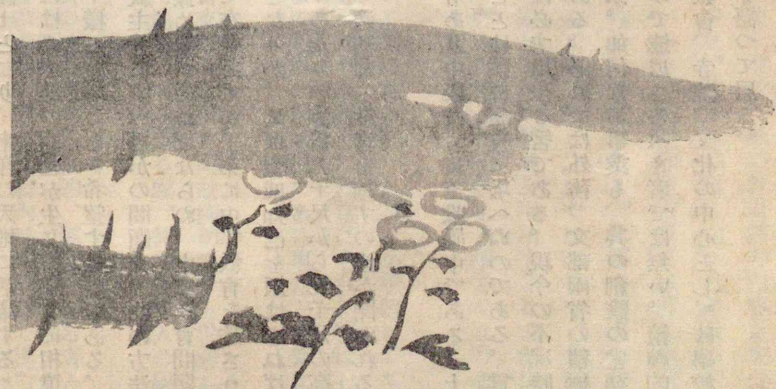
去にしぞ。

露しけき虫の城の邊

千里月明

江山は語らす

秋草徒らにのひたり



光こそ若けれ

廢墟の月

青春の血枯るしも

胸は躍る

處女の魂

蘇生る初秋の光に。

蒼穹高く

星斗闌干たり

彦星は西

織姫は東

際涯なき銀河

月宮の悲

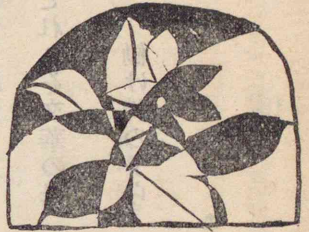
これこそ文華の母

眞理の泉よ

働け神の子ら

おゝ働け人の子のために。





隣邦に於ける注目すべき 二大政策に直面して

文部省督學官 松井謙吉

勤勞な中華民族に職業教育とは鬼に金棒

本日は隣邦に於ける注目すべき二大政策に直面してと題して少しく偶感を述べたいと思ふ。私は數ある邦の中に最も密接なる隣邦の一つとして中華民國を擧げ、今一つとして其の北に位置する大シベリヤの支配者たるソヴィエツトロシアを擧げる。

近來我國に影響を持つもの單にロシア中華民國に止まらずして全世界が色々の意味に於て、我國に影響を持つが私は此所に此の二國について少しく論じてみたい。

中華民國の新政策としては、教育に交通に種々ある政策の中特に新政府の教育政策數項について見るに、先づ

- 一、刻苦勤勞精神の養成
- 二、嚴格なる規律の養成

を擧げてゐる此の二つの精神は誠によく支那の民族性のあらはれで、彼等は恰も我が國民が櫻を愛する様に梅の花を賞する。今其の櫻の花を見るに其の爛滿と咲きほこるさまは、誠に美麗と云はふか壯麗といはんか、人をしてあゝ櫻よとの

感を抱かしめるのであるが、然し一度風が吹き來らんか花の片影をさへ止めずに散り去つてしまふ。そこに良い所があるのであるが、一面忍耐の念の無いことを物語るものではないか。然るに梅花は南洲の詩にも「雪に耐へるの梅花麗かなり」と言ふ句があるが如く、寒風に耐へ白銀の霜の中に香を放つ、其の梅花が支那民族性の表象ではあるまいか。彼等の海外各地に移住するを見るにこれを以つて單なる民族性であると云ふは餘りにも平易すぎる。人誰か故郷を慕ふの情を異にしやう。我國に居住する彼等の生計は必ずしも豊かならずと推察するに難くないが、其の困難なる生活の中に刻苦する、所以ありと思はれる彼等が若し先に此の精神の上に此の嚴格たる統制を得て居たならば、今そんなにあなどられては居なかつたであらう。彼等自らが此所にそれを悟り第一項に擧げたるを見て將來に對し恐れを抱くものである。彼等は將に起たんとして居ると云ふも宜なるかなである。

- 三、獨立生活の技能を養成し、生活能力の増加を期す

此の生活と云ふ語をどの程度迄正解してゐるものがあるであらうか。私個人の状態に見るに中等の教育を受けてる子供に問ふて見ても生活の眞意義を解することが出來ぬのである。それならば私の解譯はと云ふに、これを二方面に分け精神的方面と物質方面に付いて考察すべきであるが、單に物質的方面に付いてのみ見るならば、其の第一に位するものは即ち廣義の生産である。生産あつてこそ良生活の営まれるのであるのに、此の生産を忘れ其の第二のものである消費を深く知りすぎてゐるのである。上流下流を問はず消費生活を以つて生活と思つてゐるものが多いのである。生産を忘れ消費のみする者は生活者に非ずして生存者である。

- 四、社會教育の徹底を圖り生産の増加を中心目標とすること

社會教育の徹底とは

一に公民教育の徹底である。公民が獨立生活を營み得る能力を持つて正しく強く強く生活して行くので無ければ國民の資格はないのである。僅かの學校教育を以つて教育全部とするは將來に處するの道でない。即ち社會教育の徹底の最も重要な

ることなりと云ふべきである。此の粘り強い國民が此の政策を手にしたのは誠に鬼に金棒である。

先日女學校長會議に於て女子公民教育に付きて協議せるに、或校長が何時女子に公民權を與へるかとの質問を聞いた時私は泣きたくなつた。公民教育なるものは公民權の爲の教育ではないのである。公民權の與不與は國家の公民たる上に何等の變りはないではないか。一女學校長にしてかようなことで如何にして公民教育の徹底を期し得よう。職業婦人の名を聞いた時にこれを尊敬するものが何人あるか。百性と云ふは農業を營むものことであるが、此の名を卑んだ風は遂に學校教育をして職業を離れる爲の教育としてしまつた。

五、職業教育に重きを置き産業に關する専門學校の増設

本縣に於ては産業に最も重點を置き、優秀なる學校の多々あるを見て、如何に産業教育が徹底して居るかを知らず難くないのである。然れども中には英才教育に目的を置き、産業教育を輕視する學校一、二に止まらないと見るのも又誤信ではあるまい。民國が職業教育を尊重せる所以此にあり我國の轍をふまずとした表れであらう。

六、自然科學實業科學に重きを置き、大學教育は自然科學及實業科學を原則とすること

日本の大學を大きく文科、理科の二方面に別けてみるに其の何れに重きを置くかを數より見るならば、法科、經濟科に向ふ人が多い。彼等が自然科學職業科學に重きを置くのは我が國の弊を識り、其の轍を踐まするのではなからうか。國家教育政策に付いても大いに反省を要するのである。コイルバツハは云ふ。全世界の未開發なる場所に於て生産に適する様身心を鍛練し未開地の開發に耐へ得る精神養成を目的とするプロエクテオンスチュレたらしむ。宗教は之を排し自然科學を以て之に代へん、と。勿論此の意見と雖も總てに同意する譯には行かぬ。併し英才教育のみ教育でなく、人文教育のみ教育ならずとする所に賛成すべき點が種々あるものと思はれる。かかる職業教育を賤しみ、人文教育をのみ教育とした風は遂に生産教育を無視し、消費教育に没頭するに至らしめた。かかる者に對し一滴の清涼劑とも云ふべきは此の教育政策である。本年四月四日スクリーンがソヴィエツト聯邦の工業者大會の演舌に云ふ。「今や我々は技術の收穫に面を向け

るべき時である。技術に關與せずとの古い言を捨てて我自ら仕事の主人となり、完全なる指導者となるべきである」と我等日本國民は是に舊來の弊習を捨てて、彼スローの云へる如く「追ひつけ」の言を「追ひ抜け」に置きかへ所謂追ひつけ追ひぬけの精神を以て空進すべきであると思ふ。

次に第二問題となつてをるソヴィエツト・ロシア東方政策に就いて述べよう。

此の問題は今に始まつたのでなく言はば古くさいと云ふべきである。而してこれは彼等が暗中の暗として來た政策である。而して此の政策の遂行に當りて英國では失敗に終り、終に全力を擧げて東方に向けたのである。東洋に於ては其の何分かの効を奏して居るので、支那、印度其の他資本主義國家に對しては乘すべき多くの機會を持つて居た。

日本に對する手段としては、割合無頓着ではないかと思はれる點もあつた。而して今までは重に思想方面に、その鋒を向けて居るのである。然し彼は數年續けて居るが大なる收穫を得ることが出来なかつたのである。即ち東方政策は或意味に於て成功し得なかつたと云ひ得よう。彼等が此所に目先を變へて産業五ヶ年計畫を始めたのである。彼等が此の政策實行に如何に實力養成をなして居るかは知るに難くない。

此の政策の表はれは我が北洋漁業權問題となつたのである。彼等國民の總收入をして二倍乃至三倍とするには、かのポーツマス條約によりて與へたる利權を取返さなければならぬのである。此の問題の經過に注目するは勿論、他に潜在してゐる多くの問題の展開が注目される。

ソヴィエツト・ロシアの取りし政策、五ヶ年計畫は其の中一、二年に大いに進展し、一九三一年に於て完成せんとしてゐる。農たると工たるとを問はず、等しく國としての立場より見て、其の如何に重大なるかは察するに難くないのである。元より武力を以つて此れを制するは我等の好む所ではなく、武は鋒を制するの意なることを解してゐるが、併しながら現在の我が地位を築いたのは血と肉との結晶であることを知らなければならぬ。

私は京都を去る約一里程の農村に生れたが、大都市に近隣する農村に於いては其の生活を營む以上先づ生産である。貧

しい農家の小作は自給自足の生活の爲に山に家に生産の勞苦をなめた。かくの如く内々のものが生産に當つて以て消費生活を行なしたのであるから、其所に感謝の念が生れて来るのは當然の歸結である。この勤勞と感謝の生活様式が日本全體を通じて認められなければならぬ。然るに總ての工業品が資本の運用によりて廉價に販賣せられるを見るに、其の喜の裏に手をもがれ足をもがれして居るのを悲む者があるであらう。資本主義時代としての生活は昔日の生活とは大いに異つて来たのである。而して今や第二次の大なる變化に逢遇してゐるに際し農業者は農業者としての考へが必要である。即ち百尺の竿頭一步を進めることが必要ではあるまいか。今日の生活より自給自足の生活への進展が叫ばれるべきである。又農村の商業化即ち消費者より直接生産者への道を力説したのである。

又現代は分業と綜合の時代である。綜合されない分業は益なく分業なき綜合は進歩なし。農業に於ても研究、發表の機關即ち研究者農業實際者と教育とは綜合合流すべき時である。私は此所に多種少産經營法を奨励する。是れは所謂多角形式經營である。多くの人は單種多産を唱ふであらうが、私は多種少産により勞力の分配をして適當ならしめ、以つて其の總利益をして大ならしめ、生活の向上を期すべきである。而して如何なる方法によるとも、如何に努力するとも、統整なき生産は價値なく燈火なき闇の歩行である。一例をあぐれば日向南瓜の市場進出である。此の日向南瓜は千葉の君津南瓜の種を日向地方で買入れ、此れを栽培改良し、其の種を關西のみならず關東までも輸送するに至つた。其の南瓜の中に存在する種が、毎年宮崎の試験場に集り、總額一萬圓に上る。これが再び果實となつて遠く東都の市場を彩るのである。其の統整安配が當を得てゐるのである。

尙教育に付いて今少しく述べるに、私は今日人格的陶冶に必要な人文教育をして充分に徹底せしむることは中學のみでは成し得ないと思ふ。何となれば中學校の目的は、男子に中等の普通教育を授くを以つて目的とすとあり、其の完成の教育が必要となるのであるが、現在に於ては此の完成教育を受けさすべく收容し得るのは總中學卒業者中の四割で、爲に他の六割は四割の犠牲とされるのである。然らば中學益なきかと云ふに然らず。宜しく有才の子は入學勉勵し、完成教育まで突き進むべきである。而して此の完成の教育こそ公民としての訓練である。

又我が日本國民は模倣性に富む長所があるが、創作創造教育の必要がある。而して創作創造は苦闘の鉢に咲くべき花であり安逸の後に來るべきものでない。學校に於ける學習は、或意味に於て一種の模倣である。故にこれに依りてのみ創作創造は困難である。此所に實驗實習の必要がある。即ち模倣生活を打破るヒントを與へるのが實驗實習である。故に又困苦の伴ふのは必然的である。然し此の困難に耐へ、苦しみに勝つた時、其所に大なる趣味が湧くのである。山登りの趣味は山登りの困苦後に報いられるのである。

學校に於ける學習は習慣の養成にある。即ち習慣により得た體驗より得た信念によりて創造創作が出来るのである。運動は其の型を幾度か練習し習慣の域に達して成るのである。而してこの斷へざる意志は眞に實驗實習の賜であり、此の意志ありて社會に出で國民としての正しき道を歩み得るのである。此所に於て過去にありし教育政策を以つて其の發達向上を計らなければ、隣邦二國の後方になるではあるまいか。今や大いに自重と發奮の期であり、教育政策の一大轉期である。

(文責速記者) 皇紀二五九一・六・一一

思想の學生は

貧困な弟子に多い

學業優秀で健康な人も

文部省では學生思想問題善導の資料に供すべく、先年來多大の苦心を拂つて「學生思想運動調査」を行ひ之を一冊子として發刊することになつてゐる。その序論ともいふべき、「學生及大衆が共產運動に投ずる動機」といへる一項中、三・一五事件で檢舉された約五百名に近い人々につき各方面から調査したものと内容を掲げると左の如くで、貧困なもの學業優秀なもの、健康なもの、最も多いといふことは注目し得る。

▲財産状態(四七一名)	富裕なもの	五名	一%
	普通なもの	一一五名	二七%
	貧困なもの	三四一名	七二%
▲學業の成績(中等學校以上を卒業したるもの二四五名)	一三三名	四六%	
	八二名	三三%	
	四二名	一八%	
	五名	不明	
▲健康状態(四五一名)	健康な	三六四名	七七%
	不健康な	七名	不明
▲家庭との關係(四七六名)	實父母のあるもの	二一八名	四八%
	養父母あるもの	一六名	三%
	繼父母あるもの	七名	一%
	父なきもの	一〇八名	二二%
	母なきもの	六九名	一四%
	父母なきもの	四四名	九%
	不明	四名	不明
▲配偶關係	既婚者	一四五名	三〇%
	未婚者	三二六名	七〇%

(文部省調査)

短歌

都筑・山内第一

石原日の出

三保に遊びて

三保が濱素足になりてそゞろ行けば、はや羽衣の松に
來にけり

波の音に三保の濱邊は明けそめて、地曳網引く人や幾
組

曉の三保の濱邊をさまよへば、富士の高嶺の白みはじ
めぬ

矢のやうにヨットは走る三保の海、夕餉すまして暫し
あそぶも

三保の松早や秋風の訪づれて、ソファに憩ふ夕べ涼し
き

風呂浴びて安樂椅子によりかゝる、羽衣亭の松風の音

金魚

Y S 生

子供らの群靜かなり金魚やに、われたちてみる夕涼の
まち

そへちゝの母もいねたるひざかりに、金魚賣りのこゑ
いととほとほし

夕涼の金魚の店にたつわれは、鴨の踊子思ひ出でしよ

夕顔

同人

文よめば頁をめくるかぜ涼し、庭面のやみに白き夕顔
麗人のありし夕の粧を、思ひそいつる夕顔の花

こそその春わかれし人を思へとや夕顔の花、淋しく咲け
る

おとつれを読みゆくわれに夕顔の、心もよめて秋はた
ちそむ

朝顔に一日をのへて夕顔に、七十年の夢かこち顔

俳句

高座・明 治

高橋南柯

こぼろぎ

夕霧の牛小屋主持つ間のこぼろぎ

青柚子の香ゆかしく齡たけぬ

西瓜二つ提げて入りぬ別荘の露

残暑斷つ今朝の雨机に端座す

ぬがへりの夢虫の音となりにけり

窓の秋雲の往來の身のうつろ

池さらひ晴れて珊瑚樹の實の赤さ

書に倦みし吐息名きかまほし草ゆれて

月に開き日に閉ぢぬはかなやさばてん

朝陽うれしよべの露の下駄はきて

高座・明 治

尋六男組

夕涼先祖の話に感心す

どくだみの花白々と朝の露

木の下の習習帳にせみの聲

打水をした後の心持

月冴えて青葉の影の虫の聲

兵隊の兄さん今日はかへるなり

竹籜にさわさわわさわ風の波

朝霧をかけつりまはる子供かな

蜘蛛の巣に掛つてわれるシャボン玉

打水や松葉の先に一しづく

夏の宵ガシヤは向の岸にゐるかな

夕立にホット一息つきにけり

やれ釣れたバケツは何處だ大鯰

さわやかな朝日さしこむかやの中

眠られぬ苦しき夏の病氣かな

夜の池に西瓜提灯しよんぼりこ

端山一三

鈴木豊

同

植田貞萬

同

井上福松

石井豊次郎

同

山崎正男

同

同

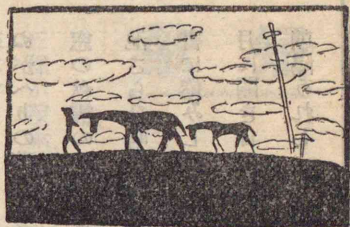
平良宏

同

山崎嘉雄

同

鈴木勳



現下の農村問題に對し

農村教育は如何に施すべきか

東大助教授 渡邊與一郎

農村教育は郷土研究に基を置き村是の建設より共存互助の精神に迄指導を徹底せしめよ

農村教育の本質的目的に付いては、皆様が本月の研究會に於て充分御研究のことと思ひます。さて農村教育は農業生産の技術を指導教育するのみならず本質的問題は農村といふ共同社會に於て人間が集團生活を營むその方法手段に重要性があるではないか。發明家、思想家、科學者、文學者等多くの名もしらぬ祖先により造られたる生活様式や文化を繼承し、尙これをよりよきものとして子孫に傳うべく指導するのが教育である。文化に對する理解を教へるは當然であるが、具體的な農村經濟生活の手段方法を指導するのも又一任務ではないか。

若しも農村なる共同社會が、徳川時代まで如何に指導されて來たかを見るならば、其の教育は極めて簡單にして、村の寺小屋師匠が讀書等を教へたり、若者が一所に會して先輩より其の村の生活様式を訓練されて居た。而して又小さな村は自給自足の生活をなし得たので他の大社會を知る必要がなかつた。

然れども現在に於ては自己の共同社會と他の共同社會との經濟的、法律的關係を識つて智識が開け、昔は先輩の成し來

つた技術を修徳し、先輩と同等の成績を擧げて居たのに止まるが、現代の生活は他の共同社會と販賣購入等して一家の經營をなすのであつて、社會的條件に左右されるので、村に於ける生活は自然變化して來た。

現代の農村教育者は、自己の共同團體と他の共同團體との關係を理解して教育指導に當るべきである。大正八年以來、我が經濟は極度に收縮し、爲に物價は暴落し、農業疲弊の憂目を見るに至つた。而して國の原因は他の關係ある共同團體の疲弊等によるのであり、單に農産物の増收によるのみ解すは大なる誤謬である。

故に農村教育に於ても單に技術指導よりも、今日の國民或ひは世界人の經濟を考へ、農業と工業の關係、農産品と工業品との價額上の差異、或ひは卸賣と小賣との相場の違い等他の社會との關係を考へ、其の大勢に顧みて如何に處すべきかが大なる問題である。

然らば今日の農村教育は産業發展に如何なる方策を取るべきか。即ち先づ郷土調査をなし産業是を立てねばならぬ。この郷土調査は一時的功利的のものでなく、永久的な教育の本旨に適ふものでなければならぬ。一例として英國のオックスフォードシャヘーホドシャで村落調査をなしたが、この郷土調査は、産業是よりも兒童及青年が自己の住む村が如何なる状態に、如何に發達して來たか、如何に推移して來たかを知らせる爲である。これは先生と生徒とが、實地調査をなし村がどんなであるかを認知して地目を造り又村の全圖を造りて土地利用の方法を知らせる。又地圖を引例し、其の變遷を語つたりしては村の生活様式を知らせる。而して生徒の經驗を増し、此れを地圖に畫いて調査し整理し、産業是、將來の方針といふよりは、村全體を教室として、之が我が農村なりとの意識を強めるのである。

産業是、産業方針等の任に當るものは、産業組合等で教育方面に任務を持つものは援助するは可なりと雖も、直接に此れに當るは如何であらうか。教育には教育主體の郷土調査あり、その調査に付きて農村地理教育に専門家を招いて調査してゐる所があるが、大いに有効であるといふ。私が直接指導をした長野縣に於ては、村の土地利用、耕地の分散、實地家の配置の状態を調べたが爲に、村民の村の認識程度が深くなつた。それは決して直接産業の發展策を立てる爲の調査では

なく、教育的に効果があつたのである。

學校と云ふ機關は直接産業の爲ではない、寧ろ村の研究室でありたいと思ふ。

生徒指導に當りては圃場に出で實地指導をなし、村全體を對象として教育する。此所の郷土調査の必要があるので、單に個々の農業經營ばかりでなく村の全體の調査をする、その間村は面白い一つの共同社會で密集したる村落社會であると云ふことが自ら了解出来る。

日本農村が米國等の農村と異り、往みよい爲に居住するのではなく、人格的關係、社會的、共同な人格により結合されて居るので利益のための集團ではない。

都市社會と農村社會とを抽象的に説明するのは困難なことであるが、人爲的經濟的には都市は消費場、農村は生産場であり、政治的には都市はその中心で農村は其の支配を受け統一されてゐる。都市に居住する人は種々に雑多であるが、農村に於ては先祖代々住居を其の村に置く者のみの集である。これ等は郷土調査により徹底させ得るであらう。

農村なる共同社會は、人格結合よりなる共同社會でこれをして農村の子弟に充分明瞭に意識させることは一重大なる事柄である。要するにかかる農村生活をして充分調査し理解せしめ、彼等の進歩の途を開くべきである。

農會産業組合はそれを基本として確實な基礎の上に農村是、産業是を建つべきである。埼玉縣に於ては郷土調査をなし其の實地調査をなしたるもの三十二校に達して居るが、この經驗を通じて其の調査技術等に關しては、尙相當研究の餘地があると思ふ。次に

農村婦人の教育方法は如何にすべきかに就いて述べるならば、その作業は女子に最も適することが必要である。今まで農村婦人は過激なる勞働に當つて居たことは婦人の天職上好ましくないことである。婦人が過勞の爲に早老し、死亡率に於ても相當高いのを見ても大いに考慮する必要がある。男女の勞働の分業が必要である。婦女子は古來微細なる作業に適する故に收約農業に於ては此の力を借りる事が多い。かの家畜飼育の如きものは一つに婦人の仕事で、かかる方面では女

子及子供の勞力が用ひらるべきであり、此の方面の經濟的地位高く今後大いに躍進するであらう。

安城（愛知縣）に於ける養鶏を見るに飼育、卵の集散に至るまで子供婦人が、その仕事に當つて居て其の収入も割合に多く集卵場の運用により多利益あるを見れば、婦人童幼の勞働の力を感じない譯には行かぬ。

かかる意味に於て婦人に勞働知識を興ふることの必要を認めるのである。次に婦人の家事經濟に付いて述べるに

米國經濟學者たるバツタフィールド氏の意見によれば、現在農村の不況は、世界的不景氣、歐州大戰の爲歐州各國の疲弊及農村振興の結果、需給關係が破れしことにありとす。是の如く農産物増産により、農民をして都會市民の生活程度まで貫上させ得るか云ふに、然らずして即ち農産物の過剰により農産物の價額は低落するのである。

此所に於てか農村に生産せるものは農村に於て消費する方法を考へるのである。我々は今まで農産物の代價たる貨幣を得んとし、良質のものは總てこれを賣却し、自分は常に惡質の物をのみ處分して居たのであるが、今日の自由個人競争となるに於ては富が社會的政治的地位を得る所以であるから、この貨幣に絡局的目的を置く如く思ふが、然し私達は自己の生産せし物を處分し、農民生活の幸福を味はふべきではないか。

今から四年前山梨縣の農村調査を行つたことがあるが、或小作人の主婦が一錢二錢の錢を子供に與へて菓子屋にてオヤツを求めさせてゐた。そして自分の家の前に今を盛りと實つたアンズはふりかへりもしなかつた。

これを見て婦人の家事經濟の知識が如何に乏しいかに驚かされる。その一錢二錢の菓子よりもアンズの方がどんなにか子供に取つて幸福であらう。

聞く所によれば佛蘭西に於ては、自己の家庭に栽培した農産物を貯藏し加工して、これを以つて客を招待するのが自慢であると云ふ。

即ち家事經濟に於て、我々は少し農村生活を樂しむ必要がありはしないか。（文責記者）



生まるべき讀方の新潮 (其の二)

—— 國語本然の性能と藝術的朗讀 ——

鎌倉郡大正校 尾 尻 隆 次

文 象

前述の如く讀むことの必要を知り得たが、しからば何を讀むか、勿論表現された文字語句を讀むのであるが、私としてはこの讀むとは文字表現を通じて其の中に流れてゐる生氣潑瀾たる文象を讀む意味である。

しからば文象とは何か、これを學問的に少し研究して見ませう、

東大藤岡博士は近頃文象 (Verbal image) に就いて左の如き定義を下してゐる。

「文象とは言語を表出せんとするに先だつて心内に備る相應の心象を言ふ。文象は生活經驗をしながら、これに相應する言葉の經驗が加て行く、其の過程に見ることが出來

る」と言つてゐられる。これは個文についての定義であるが馬淵氏等は一篇の作品に對して「文象は素材と言語とを融和せんとし、又國語の内容形式を融和する心象の流れであつて内實を中心とする。

と言つてゐられる、之が冒頭にのべた昔話の心持であつたこれによつて考へる時心象は作品を創作する場合、經驗した事實を統一的に聯想し、幾多の素材を總合しながらそれに相當する言語を産出する母體となる。而し創作せんとする場合素材をそのまま採用はしない。誰もが自由に修正し撰擇し驅使用する。

さうして出來上つた文には文としての心象はいつ迄も消へ失せべきものではない。常に文象は作品の中に躍り流動し、強い流れを示してゐる。かうした文象は簡單に言へば

何か、文象は内容でも形式でもない其の中間のものである。果物の果皮と果肉との間にある營養物と同じ様なものだ。果皮をとればそれはなくなるのだ、丁度文の表現文字を取りさればそれがないと同じ様なものだ。

此の中間を一貫する主流文象を讀めばよいのである。即ち讀者聽者作者の混然融和の状態にありて朗讀すればよし其處に文の文たる價值があり、讀方の使命をはたすことが出來得るのである。

かうした文象に棹さしながら讀み行くのが眞の藝術的朗讀である。勿論創作意識の働く時には智の主たると情の主たるとがある。其處に各文特有の個性が表現される。それをありのまま讀破して、これを言語的に表現して行く時に朗讀の價值が一層高まつて行くのである。これを文象に棹さした讀み、と云ふのである。藝術的朗讀と云ふのである。文象に棹さしての朗讀指導法

一、教師の研究

教育は注入的であつてはならぬ教師の感化に待たねばならぬ。教師の感化をより大ならしむには教師の修養をかりねばならぬと思ふ。我々は日々修養し自己を伸しつゝあ

る。

「伸びつゝある者にこそ伸びつゝある兒童を教育することが出來得るのである」

世にはまゝ教壇に臨むにも何等教科書にだも目を通すことなく平然としてゐる教師がある。そんなえらぶつた人に我々は馴れてはならぬ。いやが上にも猶且自己の智識を精細にし確實にしておかねば眞の教育は出來得ないのである。少なくとも教科書の一讀位は必要であるまいか。兒童が伸び、教師が伸び兩者共に伸びつゝあつてこそ眞の生氣潑瀾たる教育がなすとげられる生きた温い血の通ふ伸びつゝある教師によりて始めて靜寂な世界に沈黙を守りつゝある文も躍動し活躍し、血が流れ呼吸が知れて來るものです。其處に文象の流れを知り得る一番始めに述べた例話も我々は幾度も讀むうちにつかみ得ることと思ふ。

繪畫に日本畫と西洋畫とがあり、同じ日本畫でも南北兩派を始め土佐、四條の各その幾種類にも分れることであらう。而して其の繪そのものに於て竹は竹なれども墨で表はす場合の竹と朱で現する時の竹と又油繪で表はす場合の竹と皆感じが異つて來ることであらう。一口に墨はこう朱は

こう油繪はこうだ等といへ風韻を異にしてはゐるが墨繪の枯淡超俗なるに油繪の濃艶なる以外に各々特徴を持つてゐることと思ふのです。その水が幾度も鑑賞される中に幽感雅感、美感など心中に刻みこまれることになる把握さるゝ如く即ち文なれば文象が始めてつかめたわけになる。其處に眞の讀み、朗讀が出来得る。文字に表現された人間性が我が我々の讀むべき事實である。

私の組は前にも述べた通り兒童に最低限度廿六回讀ませることにしてゐる。但し豫習時のみに

先づ三時間取り扱ひなれば大低兒童に第一時は素讀―通讀―講讀迄位やらせて、第二時は通讀―精讀―朗讀迄の豫習をさせて、第三時は精讀―耽讀―藝術的朗讀迄なる様にさせかうした豫習を基礎として常に毎時教師の範讀をなし兒童の缺點を知らず不識の内に矯正する様にしてをる。又内容深究をなしながら朗讀の研究をなして其の向上を圖つてをる。讀方教授は教師の範讀をまつて始めて完成されるものと思ふ。

又一方兒童の朗讀法の缺點を明示してやる必要があると思ふのです。勿論兒童は大人の様な聲帯でないから、其の

聲の出し方は完全ではないが、其處に又言ふに言はれない優れた處があるかと思ふ。其の優れた所を知るには、やはり兒童の位置迄自己を引下げて彼等の缺點を見る必要があるだらうと思ふ。試みに大略私の方の兒童の缺點をあげる

- 1 聲の出し方。腹から心から聲を出してゐる生徒が非常に少ないこと
- 2 八分位に聲を出すこと。
- 3 兒童にしっかりとつかりよくわかる様に通讀して御覽なさいと言へば、ありつたけの大聲で讀む、これは讀む方法が悪いばかりでなく衛生上にも害がある。有名な辯論家は二分と云ふものは聲のゆとりをとつておくと、この心態で讀ませなければならぬ。
- 4 「ひ」と「し」
- 5 「使用」といふ事を「費用」と讀んだり、火鉢をシバチと讀んだりするので。此れは此の地方の訛言であり
- 6 「に」と「へ」

「汽車に乗る」「東京へ行く」を「汽車へ乗る」等と不

5 同字(假名で)の發音不明。
例へば六年の「人と火」であまり火と言ふことを語尾を強くあげるので日といつてしまふ様な事がある。

6 語尾文としては述語の不明瞭
述語は軽く讀むことによつて意味を深める場合があるが、軽く讀めと言へば低聲で不明瞭になる。軽く讀むことゝ不明瞭な小聲とは違ふ。

7 間をおくこと。
文には前と全然切れた性質の文がある。又場面がくるつと變つてゐるのを見ることがある。さうした場合、幾分なり其の文との間に時間をおくことが必要で其れ

をすることを忘れてしまひ、すら／＼と讀み下す尋常五年の「鉢の木」の場合で

9 僧は又行方知れぬ旅に出でたり。降り積む雪もあとなく消えて山河草木云々」とある様に降り積む雪はから場面が轉回して時も流れてゐるから、其の間に時間を幾分なりおかねばならない。

8 早言葉の生徒が数人居りますが、本を讀む場合、非常に早い。誤り讀が多い様であります。私はこれに對して素讀を充分にさせておく。

9 氣息の切り方。
我が國には昔から句讀と云ふ符號があるが其の使用されてゐる理由を兒童に教へておく必要がある。やたらに讀み下す生徒の多いので、句讀の意味をいふならば「言語を書寫、印刷するに、文章や語句の意義の曖昧を避け、論理、修辭上の明晰を助けて、了解を容易ならしむる爲に用ゐる記號である。」
かうした意義がわかつてゐれば、自然よく氣息を切る様になる。始め氣息の切り方をでたらめにやつてゐた

が近時大變よくなつた。其の氣息の切り方があまりはげしく、口ですう／＼やつてゐるのがある。又あまりきはだつて氣息を切る爲に文章が堅くなつてしまふ様な事もある。

10 熟語としての發音の誤。

日本語は元來假名で書けば同じであるが、發音によつて非常な意味の相異がある。これが日本語として一つの難しい事かも知れない。兒童の二、三にうつかり誤つた發音をなす者がある。これは注意が不足故かも知れないが餘程注意しなければならぬ問題と思つてゐます例へば幸福を降服、校服と云ふ様にこれは大體似通つてゐる發音と見られるがアクセントを違へてゐるものがある。その他歸艦と旗艦と龜艦。雪溪と設計、貴兄と奇景等の類が澤山あると思

以上大體を述べた通り兒童には相當誤つた讀方をする教師は餘程自信をもつて矯正しなければならぬ。

次に教師のとるべき態度は文の特質を知ることである。

文の特質を知ることが文の流れ、文の内實を知ることであつて授上多大の貢獻をなすことである。これに向つて指導の緒

がとかれて行く時、兒童の讀解は流れ／＼と讀みの眞目的に達することが出來得るのである。常に讀の本義を失はざる様に力めてこそ指導の眞價が發揮されるものである。

二、兒童の練習及び研究

1 自己の作文朗讀

誰れでも一つの文をまとめる時には朦朧としてゐる心象を刺激の強い或る一つの素材を中心として引きまとめるのである。其處に兒童相應の文象が文の中に流れれてゐるわけである。そして其の文を發音する時どんなにも自己の保有せる心象を發揮し様と努めるのである。そこに文象に掉された朗讀法が養成されるのである。かうした意味で私の級では感想文とか綴方とが出来上つた文を讀んで大勢のものに批評して貰ふ様にしてある。自己の文を自己の表現を讀んでゐる中に教科書にある文も一字一字注意に注意して心象を挿入して讀むことが出來得る。

2 體験を廣くすること。

兒童の生活環境に到つてせまいものである。出來得る限り高學年になるにつれて生活環境を廣くしてやるこ

とである。何故に生活環境の廣い事を要求するかといふならば、環境が廣くなれば體験も廣くなり、心象の發展も體験の進展につれて進展して行くからである。自己の體験を廣くしてゐる場合如何に文を讀む時力強い魂がうちこまれるか。體験からおしてこそ眞の藝術的朗讀が出來得るのである。

3 作品多讀。

體験とか經驗とかいふものは直接的のものと間接的なものがある。間接的なものに文を通じて經驗するものがある。五、六年なると非常に讀書心が盛になつて來るからこれを利用してどん／＼讀ませる。默讀でも何んでも多く讀む中に自然と朗讀的知識が心内に養成されて來る。

猶讀んだ其のものを人の前で發表させて度胸を作りあげたい爲に毎月開催する誕生會に朗讀發表をさせて餘興の代りとしてゐる。

4 朗讀練習競技會。

一週間に一度づゝ朗讀練習競技會を開いて兒童の朗讀研究熱をあほる。先づ級を二組に分ちこの二組に競争

をさせる二組の人数は同じ様にしてこれが定められた文を讀むことになるので、組の一人讀み誤まり又發音を誤りつかへたりすると他の組の一人が始めから讀みこれが失敗すると前の組の人が自分の組の人が自分の組の前の者の失敗した處から讀み出ますかうして組全體の人が終つた時澤山讀んだ組の者を勝ちとす。この競争は教師なり組のリーダーなりが誤讀の場合次の者を立たさせる様に進めて行けばよいので割合に靜かに出來得る。讀んでゐないものも他の組の者が誤讀しまいかと見てゐるから自然默讀をする様になる兒童は相當興味をもつ。

5 レコード鑑賞。

近時朗讀指導熱の高潮されるにつれて教育レコード等が澤山ビクター等にふきこまれる。かうした朗讀吹込みのレコードを利用して兒童の研究心を涵養するのも一方法と思ふ。

相當に研究してある朗讀法だから、このレコードを鑑賞させながら兒童の讀み方の悪い點を自分から見出し直す様にしますと非常に朗讀法が發達して來るので

ある。勿論兒童が吹込んだので充分とか完全とかは参りませんから、そうした點は注意をしてやればよいと思ふ。

6 符號を定めること。

私の級では現在聲を高くするとか、強めるとか、間をおくとか其の他色々な種類に別けて兒童の研究心を又練習を容易にする様にしてある。

△ 下げる處

○ 強めて讀む點

● 弱めに讀む

レ 緩やかに

f 早く

◎ 文の山 中心語句等

『 聲色

この様な符號だけでは勿論完全には朗讀出来ませんが大體かうした氣持で讀んで來る様豫習して來る様にし

藝 術

藝術については色々と解釋されて居るが、私が此處に藝術的朗讀と名をつけた藝術と言ふ意味は次の如くある。

藝術とは知識とか感情とか個人の才能とか民族の精神とか乃至時代精神といふ類の諸種のイデオロギーや精神力によつて決定され、且つ我々の生活乃至生命の純粹の歡喜を味出した創作の心理過程を言ふ。

かうした解釋のし方は根據がなくて言ふのではない。始め此の藝術を解釋したイギリス派の主觀的研究者は「美的感情とか趣味判断とか乃至は創作の心理過程といふものである」といひ、客觀的研究者はこれを藝術の起原とか、體系とか分類等の方面から解釋しようとしてきました。そして其處に藝術と云ふものは單なる藝術でなく藝術は一種の人生であり、社會生活の一部分なりと斷定する様になり美と藝術との關係をとく様になつた。美とは一切の美なるものゝ總名に外ならぬものであると、而して所謂自然美とか現實美とかも自然に現實の上に現はれる藝術美を指すのであるから藝術美は一切の美なるものゝ總概念に外ならない。かう言

向けて居る。この符號がまた兒童自身の豫習の時内容を考へながら鉛筆で書き入れて非常によく文の特筆をとらへて讀みをあらはすのに驚ろく。

7 朗讀會、此れは兒童相互の研究心を養成する爲、全校の兒童が一堂に會し各級の撰拔者が朗讀することになるかうした特別の設置については何れよい折を見て其の様子、結果、批評等について、くわしく述べたいと考へて居る。何んとしても全校生徒足並みそろへて朗讀の研究といふことは自然各級の朗讀熱を高めて行くことになる。

かうした種々なる方法によつて朗讀法の研究をなし、讀方科の根本目的に達しようと思懸けて居るが、たゞ此處に最後として付け加へておきたいのは藝術的朗讀の藝術とは如何なる意味か、よくこの語の意味を誤まられて藝術的朗讀等云つてもそれはたんに文學的方面の教材のみにしか通用されない言葉であらう等言はれるから、私の考へてゐる藝術とは如何なる意味のものか、項を新にして極く簡単にこの藝術的朗讀が讀方の根本目的であると云ふ主張説に筆をとめたいと考へる。

はれる時讀方にある文學的教材のみなく、論文的なものも説明的なものも、實業的其の他のものも、自然美現實美の中に含まれて行くと思ふ。猶藝術は十九世紀の前半にテオドル・フェヒネルリツプス等の科學的研究、理想主義哲學の藝術觀等起り益々發展をとげ、一九世紀後半から二十世紀にかけて、マルキシズム藝術論が大ひに叫ばれる様になつて來た。ルナチャール・スキーは唯物史觀的藝術論をときて「構成又は結合の形式に美あり」と強く言つてゐる。文には（地、歴、理、實業等論文等の智的の文にも）構成結合は必ずある。表現法の研究もある。かゝる意味から見れば小學校國語讀本の中にある文學的教材以外も藝術的朗讀は行ひ得る様にあることと思ふ。

又彼は功利的立場から離れた意味で「藝術は生活乃至生命の純粹の歡喜にして一切の經濟生活を飾る王冠なり」とも云つてゐる。

これに對して唯心史觀的藝術論は單に情とか精神方面のみによつてこれを解釋しようとして居る。

かうした中にマルキシズム藝術論は起きたのである。曰く「階級闘争は社會生活の根本想なり、この階級闘の反映

が藝術である」と申す様になつた。これによれば社會の反映藝術とも言はれるので、我々の社會に存在してゐるものは皆藝術的に観める事が出來得る。藝術の本質は

道德的、實利的、功利主義的、なりと云つてゐる。フリーデは繪畫から藝術と言ふものを解釋しようとした。線畫は理智的、色彩畫は感情的なりと、而して我々の經濟生活も理智的感情的の區別がある故に眞に社會的に活動するものが藝術なりと言つてゐる。

此等の諸大家の説によつて見ても在來の單なる情のみの藝術ではないことが幾分おわかりになつた事と思ふ。智情共に備はつた創作の心理過程が藝術と私は解し、此處に特に藝術的朗讀と命名したわけである。(終)



最後の思想

津久井郡青根村 S K 生

地震がグラ／＼つと來た時、如何な哲人でも逃出すであらう。其時にその人の心は只、原始の本能さがあるばかりだらう。

思索の最後でもいざといふ時は體驗のスタートにも及ばないと云ふことは正直な考へだと思ふ。

佛教の無我輪廻説はこの意味に於て、特に私は眞理と感ぜられる。

人間は迷へるもの其自體であることはたへひ秩序を愛し、法律を守つて居ても其本質に於て、誠に露の身ではある。

灰身滅智 まことに一理ある。

されど眞理を否定するものは更に其否定を否定するのでなければならぬ、大乘の即の境外それである。而して此は更に近代の現象學的考察の正しい史的價値さから云つても興味あるものであることを付言したい。

其は明るいそして靜かな日本の境地であり、禪室にくむ朝茶の清い藝術境である。(昭和六・七・五)

各學年經營の努力點 (其の二)

橋樹・高津 小林 錠 太郎

第二、學習を興味づける尋二の經營

一年間學校生活になれ親しんで二年生になつた喜び、自分達が今迄は一番下級であつたのが、新しい弟達や妹達が出來たよるこび、そこをつかんで學校生活への興味を深め學校生活の向上をはかつて行き度い。

學校生活への興味を深める爲には、學校生活の中心をなして居るところの學習を興味づけなければならない。

本學年の經營はその點に重點を置くべきではなからうか

(一) 尋二兒童の心理傾向

- 1 脳と手の最もよく接近する時期は精神内容の大部分は感覺機關より入る。
- 2 感覚、感官、活躍、腦髓の發達。
- 3 求知心が強い。

- 1 しかも脳が新鮮ですべての感覺よく印象を把住する。
- 2 興味は客觀的に變じ、動作の目的に興味を感じ出す。
- 3 生活が表面的、活動的、現實的でしかも單純である。
- 4 過去を追憶したり、一事を考へ込んだりすることは少す。

(二) 尋二兒童の特異性

- 1 學校生活に相當なれて來た。
- 2 學習そのものにも興味を持つ様になつて來る。
- 3 競争心が極めて強い。
- 4 生活の視野が郷土(町村)全般に及んで來る。
- 5 作業をよるこんで、繼續的に努める様になつて來る。
- 6 自分達よりも下級の者が出來たと云ふことに非常な喜びを持ち、同時に自重をする様になつて來る。



- 7 進んで他人の爲に働かうと言ふ様な氣分が濃厚となつて来る。
- 8 其他尋一の項に擧げた事項の大部分は本學年に於ても言ふことが出来る。

(三) 尋二經營の綱領

自分達よりも下の者が出来たのだ。少くともそれ等の者に模範を示さなくてはとの誇りと自重とを上手につかんで正しい學校生活の道を歩ませそれをよろこぶ様な習慣をつくることに努めることがこの學年經營のねらひ所である。

しかも腦は新鮮で求知心に富み、活動力旺盛で興味に乗ずれば異常な能率を擧げ得る時期である故特に學習に興味を感じさせ、學校生活をよろこんで自覺的に生活向上に努めるところの萌芽を養ふことが特異點より見た本學年指導の中點であると言ふことが出来るのである。

次に本學年經營の綱領を箇條書にする。

- 1 學習に興味を持たせ、研究的氣分を作る。
- 2 郷土の事物に親みしを持たせる。
- 3 作業を中心として勤勞的な精神を養ふと共に奉仕的精神の萌芽を培ふ。

- 4 團體的訓練、社會的訓練にも力を入れる。
- 5 環境の整理發展につとめる。
- 6 家庭との聯絡を尋一に引續き緊密にして行く。
- 7 子供の生活に出来るだけ親しんで行く。
- 8 直觀を重視する。
- 9 自然に親しませる。
- 10 自發的に活動させることに力める。
- 11 元氣にみちた明るい氣分を醸成するとを常に心掛ける

(四) 尋二を興味づける指導

學習に興味づけることは兒童の生活にびつたりとした學習を行はせることである。

この時代の學習としては出来るだけ兒童の生活の中に問題を見出させ、出来るだけ遊びか作業のうちにそれを解決させるところをねらつて指導を進めて行かなければならぬ。

A 學習指導の準備

- 1 文部省が示した教材に就いてそのねらひ所をつかみ、本學年教材の大綱を握つてゐること。
- 低學年教育者としては教材も少いことであるし、時間

數の餘裕を考へてみても是非これはやらなくてはならない。

- 2 兒童の環境特に郷土の自然、人事を調査研究して教材との關係を明かにし、指導のプランを持つてゐること

即ち遊びの場所、直觀物、兒童の眼をひくもの、學科學習の基礎となるもの、行事とその由來及びそれ等を中心として行はれる風習等、これ等は何れも兒童の生活と深い交渉をもち興味を以て迎へられる教材であり直觀的教育資料である。よく設備が悪いとか、備品がないとか聞くけれども低學年教育に要する適切にしてしかも經濟的な教辦物は校外に出た時かなり見出され得ると思ふ。

又教師の手をもつて魂のこもつたよく活用されるところのものが作られると思ふ。

- 3 學習についての兒童の傾向を調査する。
- 4 よりよき効果を擧げる爲に環境の整理を常に心掛け、兒童と共にその擴大をはかること。
- 5 常に兒童の力を調査しその變化の跡を一目瞭然となる様現はして兒童に自覺的に進歩向上することに努めさ

せる。

- 6 教具又は兒童の學習用具を常に研究して出来るかぎり自ら製作し、又は兒童に製作せしめて之を活用すること。

B 學習に興味あらしめる爲には

- I 兒童と共に校外を歩く。
- 一週一日位野外運動日として放課後校外に遊びに出かける。

教師としては出来るだけ系統的なプランを持つてゐた

a 動植物の觀察、研究又は採集。

b ごく初歩の地理的な基礎觀念の養成。

c 新鮮な空氣、運動による體育衛生上の効果。

d 自然への親しみ、郷土への愛着。

e 教師との親しみを深める。

f 教室内の學習の材料とし又は學習した事項と郷土の

事物と結び付ける。

以上の外に多くの有形無形の効果のあることを信じてゐる。

- 2 行時事を中心とした學習を計畫する。
- 3 全國的な福祭日、節句、又は遠足、運動會、郷土の祭禮等を中心とした學習プランを立て、児童の高調した興味を學習へと導いて來る。
- 4 興味ありしかも効果多き學習用具を與へ又は製作させること。
- 5 學習問題を彼等自身に自己の生活中より見出さしめる時にそれを學級問題として取扱ふこととする。
- 6 出來るだけ長所を見出でて賞してやる。
- 7 彼等の好きの原因を調査してみると、出來るから、上手だから、よい點を貰ふからと言ふところに原因してゐるものが殆んどであることを見てもこの點の重大なことが判る。
- 8 動物飼育や、兒童園藝に就いては尋一の項でも觸れて置いたが是非必要なことである。
- 9 分團を定めて學習させる。
- 10 發表など分團を背景として行はせると力の比較的劣つてゐるものなどでも力強く感じて活躍して來るし、又校外運動その他の作業等も非常に統制あり効果多いものとなる。
- 11 能力に應じて教材の質と量を加減する。
- 12 時には程度低い教材について考查を行ひ好結果を得させることによつて活氣づけて行く。
- 13 學年相應の學習態度を養成する爲に簡単な目標を定めて置く。
- 14 a 仲よくやる。
- 15 b 元氣よくはきくとする。
- 16 c よく氣をつけて（聞く。見る。考へる。）
- 17 d わからないこと、不思議と思ふことはどんどん質問する。
- 18 自分の考へてゐること、思つたことをはっきりと發表する。
- 19 各科學習の手引を謄寫して渡し大體それによつて學習させると共に、具體的なお話によつてよき學習態度を理解させる。
- 20 更に級中の比較的よき兒童を模範としてその態度をならはしめる。
- 21 この時代は競争心、模倣心が非常に強い故その點を利

- C 其他學習生活を向上せしむる方案。
- 1 上級生の學習を參觀させる。
- 2 よいと思つた點を發表させ又はよい點を指示してその點を取入れさせる。
- 3 同學年の他學級の成績を示す。
- 4 これは他學校のもの又は前學年のもの、同一學校の他學級のもの、それ等と比較することによつて刺戟され發奮するところが多い。
- 5 3 家庭と協力する。
- 6 a 基本的な教材を理解してもらふ。
- 7 b 學習方針を知らせて置く。
- 8 c 成績、學習態度等を通知する。又は相談に應じる。
- 9 d 振漢字其他を父兄に通知して父兄の手によつて作業を行つてもらふ。
- 10 以上は家庭通信又は家庭訪問による。
- 11 學習狀態參觀。
- 12 田舎では雨天、祭禮日等がよい。低學年時代は家庭でも割合に兒童の教育に心を入れてゐる故、その點
- 1 讀みの進度調査と促進。
- 2 始業前に自由學習時を設けて之を行ふ。
- 3 2 振り漢字による漢字學習。
- 4 多量提出の多量收得がこの頃の子供の實際の力に應じて居ることを信じて行ふ。各課にふる漢字を父兄に謄寫配付して讀本に振つてもらふ。文字學習に就いては數年前本誌に發表した故略す。
- 5 立體的な取扱。
- 6 讀み振り、身振り、對話、劇化、描畫等。
- 7 4 漢字カードの使用と硬筆書方及全文視寫。
- 8 5 學習用紙による研究。
- 9 出來るだけ自力の學習をさせる爲である。
- 10 6 讀方の學び方（學習手引の中より）

イ、目でよむ（聲を出さないで）
 ロ、すらくと読めますか。
 ハ、なかの音を聞かれてもすぐお答へが出来ますか。
 ニ、新しく出た字の読みや、むづかしい言葉のわけが出来ますか。

ホ、文の中のことを繪や、うたにあらはせますか。
 ヘ、書取をよくしましたか。

B 童謡の指導。

運動が彼等の旺盛な身體發育を助成するとしたら、童謡は彼等の精神的糧である。

1 なるべく短くて朗誦し易いもの。

2 思想的なものでなく情景の描出し易いもの、内容の單純平明なもの。

3 繪畫等に表現し易いもの。

4 取扱の過程。

a 讀む——朗讀（個、齊讀、暗誦）

b 内容理解の爲の問答、説明。

c 朗誦、うたふ——情景の想像。

d 表現する。（歌、動作、繪畫）

C 課外讀物の指導。

1 學習室文庫又は月刊雜誌の講讀。

2 各兒童の所有品、學校の備品を借りる。

3 多讀させることによつて文字の收得と讀解力の向上を計る。

4 讀書欲を満足させると共に讀書趣味を養ふことになる

5 お話の時間に發表させる。

6 國語の時間の中に課外讀物指導の時間を一時限豫定して置く以外に貸出もする。

D お話會。

愉快にお話をきかせて情意方面の陶冶をはかることに

主眼を置く場合と、お話によつて語句の收得をはかり思想を豊富にし、言葉を純化させることを主眼とする

二つの場合に分けて置く。

E 小學藝會の催し。

一學期一回位行事と結んで行ひ、平素學習したものを演出させる。

以上自分の信じてゐる尋二經營の努力點とその目的達成のための方案の概要について述べてみたが、方法に就いて

は經營者によつて各異なるところがあると思ふが、目標とする點は標題が示す點などはかなり價値あるものではないかと信じてゐる者である。

第三、學校生活の基礎を確立する尋三の經營

尋一、二と二ヶ年の學校生活を経て、小學校生活の半に達しようとする尋三の兒童。

學校生活も相當體驗し、體力も充實して來たし、精神内容も豊富になり、學習上の基本的な陶冶もうけて學習にも興味を持つて來たところの尋三の經營は、總ての方面から眺めて學校生活の基礎を確立することに重點を置かなくてはならないと信じてゐる。

しかも過去から現在に至る迄多くの學校にあつては中學年であるところの尋三、四の經營をやゝともすると輕視して何人でも容易に經營し得るとき態度をとつてゐる。

管理より見て低學年より取扱ひよく、教材の困難さより見て高學年よりも易であるとの皮層的な觀察からしてこの様な傾向が生じたこと、思はれる。

中學年の經營に當つて見たいと言へば、今年は勉強するつもりか、と言ふ様な首腦者が居る有様である故、中學年

教育の比較的振はないのも無理はないと思ふ。

しかし標題の如く學校生活の基礎を確立する覺悟をもつて本學年經營に臨んだとしたならば、その任の容易でないことを知るであらう。尋三の經營者としては各方面に發展すべき英氣を胎んでゐるところの兒童の生活をじつと見つめて、よき萌芽を健實に育んで行くだけの自らの力の修養と、實際經營への努力を寸時も忘れてはならないと思ふ。以下標題を中心としたところの本學年の經營について述べることにする。

(一) 尋三兒童の心理傾向

1 彼等の精神的活動も、身體的活動も非常に旺盛となる

2 特に活動が過ぎて粗暴となる様な傾向がある。

3 羞恥心、道德的感情起る。

4 事物現象の時間關係や、空間關係や、因果關係に注意して、觀察物を總括的に把握し様とする。

5 機械的記憶旺盛となる。

6 個人意志を正しい團體意志の下に服従せしめる段階。

7 音の辨別力が略完成する。

8 模倣暗示性が最も強い。

- 9 讀書力がずつと進んで来る。
- 10 日常生活と異つた生活形式をとつたことに對して非常な興味を持つ。

(二) 尋三(兒童及學級)の特異性

- 1 心理的傾向に擧げた様に身體の發育よく活動力旺盛となる。
- 2 精神方面も著しく進歩し、注意の持續力も増して来る
- 3 社交本能が擡頭して個人的生活より團體的生活に入る
- 4 自己の意志を發表することはよく行はれるが、他人の言に傾聽することが出来ぬ。
- 5 この學年は教育上比較的輕視されてゐる。
- 6 學校生活に相當なれ、管理上より見ても教材の方面より見ても比較的取扱ひ易い様であるが、低學年の跡をうけて次に來る高學年の指導の基礎を確立すべき重大な時期である。
- 7 無自覺から自覺への過渡期であり、習慣養成の好期である。この時代に一步を誤ると將來取戻すに容易でない。
- 8 學科目は低學年と變化なく、教材も比較的容易である。

が、次に來る學習の基本として欠くことの出来ない教材である故、是非共充分に徹底させなければならぬ。作業を非常によろこぶ。特に先生と共に働くことに興味を持つ。

(三) 尋三經營の綱領

- 1 規律的な生活を營ませることによつて身體の充實を計り、次に來る鍛練的な生活の準備とする。
 - 2 個人的な生活より共存的な團體生活へと導いて行く。
 - 3 記憶力の旺盛な時代故基礎的な教材の徹底を計り、記憶に訴へる教材に力を注ぐ。
 - 4 よき習慣を養成することに努める。
 - 5 次第に自覺的、自律的な生活へと導いて行く。
 - 6 作業を一層重んじて勤勞を愛好する精神を涵養する。
 - 7 元氣にみちた明るい氣分を醸成することに努力する。
 - 8 やさしい性情を育成する様導く。
- やゝともするとこの時代の兒童は動物や植物に對してむごたらしい所作をする。又仲間同志でも喧嘩をすることが多い。低學年に對しても親切に世話をやくと言ふよりも威張りたがる傾向の方が多い。

- 9 自然に親しませると共に特に郷土についての知識を整理しはじめ。
- 10 地理、國史、理科等次いで課せられる學科の基礎觀念を作ることを心掛ける。
- 11 目標を目ざしての生活を營ましめる。
- 12 その他家庭との聯絡、子供の生活に親しむこと、環境の整理など尋二の經營に掲げた通りである。

(四) 特異點より見た施設及び指導

A 身體方面

- 1 次第に鍛練的な指導を多くして行く。
- 2 規律的な生活訓練をする。
 - a 起床就寝の時間を定める。
 - b 食事の回数、量、好惡について。
 - c 齒を磨く習慣。
 - d 簡単な日課表を作成させる。
 - e 簡単な體操教程を定めて時に應じて實行せしめる。
 - f 日誌をつけさせ、一日を反省させる。
- 3 要監察兒童には特に注意して健康の増進障害の除去に努める。

B 學習方面

- 學習方面にあつては自律的な學習態度の養成と、基本的な教材の徹底、特に算術科に於ける基本計算即ち整数加減乗除の意義及びその正確迅速な計算をなし得る力を得させること、讀方に於ける重要語句、文字の徹底については全力を擧げて當らなくてはならない。この様な極めて簡單で容易な事項でさへも、實際には徹底されて居なくて、高學年の教育に大きな障害をなして居ることを思へば、平凡な事柄として等閑にすることが如何に怖るべきものであるかを痛感するのである。
- 1 出来るだけ自律的な學習をなさしめる。
 - 2 分團を中心とした學習。

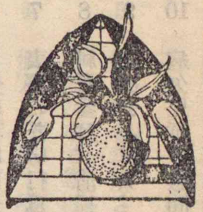
- 出來るだけ自分で考へてから相互研究して後整理すること。
- 3 學習法を理解させる。
- 4 尋二の項で擧げた様な事項を一層徹底させる。
- 5 個人一分團—學級—個人學習の形式をとることを本體とする。
- 6 基本的な教材の徹底を計る。
 - a 基本教材の調査。
 - b 兒童の力の調査、調査を兼ねた練習をくり返す様考へる。
 - c 個別的な指導。
 - d 基本問題集作成とその練習指導。
 - e 進度表の作成。
 - f 家庭との聯絡(尋二の項参照)
- 7 自由學習時の施設。
 - a 始業前又は放課後約三十分——一時間
 - b 自律的な學習態度の養成。
 - c 讀書又は研究趣味の養成。
 - d 遲滯兒の促進。
- 8 學級文庫の施設。
 - a 單行本、雜誌等を集める。
 - b 學校の藏書借入れ、共同購入、個人の所有物を借りる。
 - c 讀書表への記入。
 - d 讀書日記の指導又は書抜き指導。
- 9 學習態度に就いて。
 - a 疑問を持つこと、どこまでも解決に當る學窓心の養成。
 - b 他の意見を傾聽する習慣の養成。
 - c 明瞭に元氣よく發表する態度の養成。
 - d ノート使用の訓練。
- 10 環境の整理を兒童と共に行ふ。
- 11 動物飼育、自然觀察、兒童園藝による學習。
- 12 國語其他の教材に含まれて居る地理、理科國史的材料によるそれ等教科の基礎的陶冶をはかる。
- 13 情意方面

この時代はまだ行爲が粗暴であり、不作法であるとしても、無邪氣なところがあるが。それ等の行爲を次第に道德

- 的な反省を加へることによつて、自律的な態度へと導いて行かなければならない。
- 又元氣にまかせて活氣あることも必要であるが一方落着きのある、うるほひのある性情を目標として次第にその方向へと歩みよせることを忘れてはならない。
- 1 共存的な團體生活の理解をはかる。
- 2 反省する機會を多くする。
- 3 日記(個人、學級)週末反省。
 - 3 目標に向つての生活を營ませる。
 - 實行要目、級訓等。
- 4 動物飼育、植物栽培等によつて愛情をゆたかにする。
- 5 自治會の指導。
- 6 決定した事項に責任を持たせる。
- 7 自分の事は自分でする習慣の養成。
- 8 表裏のない行爲の奨励。
- 9 神社參拜、清掃等によつて敬神崇祖の念を深める。
- 10 友達との交り、特に下級生や同級生との交りに注意。
- 11 病欠兒童の慰問等による社交的生活の訓練の重視。
- 12 仕事に責任を持つ様に指導する。
- 13 當番、級長其他の役員及び自己の仕事。
 - 12 お話會、音樂、教室の裝飾、その他によつて、うるほひのある性情を養ふことに努める。特に田舎の子供にあつては。
 - 13 元氣あつてしかも落着きのある態度を持つ様に導く。
 - 14 出來るだけ各兒童の長所を認めて、行爲の模範となるものを級中に求める。
 - 15 手本が手近にあること、競争心を利用すること等の利點がある。

足代弘訓自警錄

人を欺くために學問すべからざる事
 人と争ふために學問すべからざる事
 人を護るために學問すべからざる事
 人の邪魔する爲に學問すべからざる事
 名を賣るために學問すべからざる事
 利を貪るために學問すべからざる事



兒童俳句小見

高座・明治訓導 高橋 高

近頃、小學校の兒童に俳句を味はせ、作らせることが、純なる彼等の魂を善導し、助長し、發展し、趣味化せしめることに、特種の意義があるといふことを若干の教育者たちが着眼しつゝあるのは非常に喜ばしい。

従來、俳句は

「いはゆる、ひま人が十七字を退屈まぎれにならべ合せて遊び半分やつてゐたものだ。若い、いそがしいものがやるものでない。

隠居でもしたらやれ」

と思はれてゐたものだ。しかし時代はやうやく目覺めて、「實生活の中に俳句あり」といはれるやうになつてきた。

今までは有閑階級の所謂幽玄、閑雅さびと呼ぶ草庵の中にかくれてゐたものが、田園に、工場に、銀行に、會社に

學窓に……あらゆる明るい社會の人にうたはれ、味はれ、そしてその生活を醇化し、慰安と鼓舞とを興へるやうになつた。これが何より喜ばしいことだ。

水打つて我一人なり月の庭。

強烈なる日光もうすらいで西の山の端に太陽はおちた。

夕燒空を嗚へいそぐか鴉二三羽。

入浴前の裸はだし、しほれてゐる草花に水をかけてやる

やがて月光をあびてよみがへつた草花。

あゝ何といふきれいな景趣だらう。

何といふすが／＼しさか。

水打つて我一人なり月の庭。

俳趣は生活につきまといつてゐる。この打水も生活の一片である。この様に生活に即して句作し得る人と、得ない人

味ひうる人と味へない人、その間の生活内容にかなりの隔りがあると思ふ。

巧拙はよそにして、この打水の句作の瞬時の生活がいかに楽しかつたことだらう。その句のなつた時、新なる歡喜に満身の躍動を覺えたことだらう。

どんなにその生活の慰安と鼓舞とを得たことだらう。かうなれば生活即俳句、俳句即生活である。自分が俳句を作り始めてから八年目になる。

近來やうやくこの境地にまで辿り着いて、こゝに健全なる安住の地をみつげ出した心地がする。自分の全的生命が向上にたちろいで安住してしまつたといふ意味でない。向上の道はあくまでも理想につながれてゐる。この理想への向上の道と平行して、つねに自分をなぐさめ自分をはげましてくれる安住の地オワンスともいふべきものであらふ。世には俳句といふ日本特有の文學の味のわからぬものもかなり多いらしい。

幸に自分はおほろげながらも此の趣味を把握し得たことを喜び感謝してゐる。

現在自分は教育に従事して大ぜいの子供をあづかり、そ

の子供の生命の純な發展につとめつゝあるわけだ。

心のすなほなる發達に一番意を用ひてゐる。いくら頭腦がよくても心の正ならざるものが何にならう。いくら體が頑強でも情の直からざるものが何にならう。

従來の教育の缺點は、蓋しこの情操教育の不完全なるにあつたのではなからうか。

學問のあるものほどかへつて赤い思想にひきづられるのではないか。

小學校に於て此のすなほな教育のためには、詩がなければならぬ。歌がなければならぬ。繪畫、舞踊、手工……總じて藝術教育が必要である。

小學校にて培はれる藝術の中、人の一生につきまとい、その一生に健全なる慰安と鼓舞とを興へ得るものとして俳句文學をすゝめるものである。入るに安く入ればます／＼奥深く、最も平民的な、制室得失の外に超然たる。自然趣味の豊富な、惹起さるゝ情緒に危険性のない。日本人に最も適した平民文學、俳句文學をすゝめるものである。

この趣味を、この芽を、培ふには小學校が最も適當だと信ずる。

しかしこれはうか／＼とり扱ふことの出来ない問題だ。俳句の本質が解つて居なくてはならぬ。

俳句とは何ぞや、こゝに於て論ずべき問題でないと思ふと、かく小學校に於ては指導者の正しい兒童觀と俳句觀にまたねばならぬ。

二者が正しくないと却て兒童を苗のまゝに秀でた蒼白い神經質な小詩人のまゝで枯らしてしまふことになるであらう。

勿論俳句を作り、味ふことの出来る兒童ばかりはゐないが、これに依て兒童が刻々創造する生命の跡を凝視して、更に爽快なる人生の明白を期待し考察せしめる生活の指導に資するものである。

詩情を豊富に培つておいて、他日の偉人なる珠となるべき素材を涵養しておくのである。一、二の天才の作品の鑑賞のみを付てはならぬ。

かう考へてみれば俳句にはかぎらぬ。自由詩でも、童謡でも和歌でもよいではないかと誰しも云ふであらう。勿論よい。要は兒童の魂の愛のほとばしりであり誠のあらはれであるのだ。いひかへれば無邪氣、天真爛漫、虚心坦懐、

持がするなほに端的に表現されて居ればそれぞよいと思ふ

十七文字ときつぱりかぎつたものでない。季がよまれないばよいではないか。まあ五年あたりからはじめてよいだらう。

尋常科では趣味より發して鑑賞本位、作れるものには作らせて差支ない。

高等科では相當秩序的に鑑賞、句作をやつたらよいだらう。

然し此の指導には教師その人を得ねばならぬ。坊間流布する安價なる商品俳句を安賣りをしてはならぬ。

自分は俳句を以て誰しもが全人的に生涯没頭すべきものではないと思ふ。

勿論さういふ人があつて専門的に研究してその道を開拓してくれれば望ましいことだ。我々はせめて此の焦燥な、不安な、暗黒な、打算的なメラニコリーな現代生活の慰安所として忙中の閑をこの趣味に遊びたいものである。

その素材を兒童にうゑつけておきたいとかう思ふのである。
(終)

言葉と感情の平行的韻律的の表現である。しかし前に述べたやうに俳句が一番適當だと自分は信ずる。

とまれ俳句の味へる人でなくてはならぬ。もつとも近頃頭も尾も胴もわからぬ俳句のいかゞはしいのがはやつてきた。こまつたものだ。

自分の學級では時にふれ折に應じて純正なる俳句の話をしてゐる。作れとは言はぬ。しかし作らずにはをらぬ。作つたからには發表せずにはおかぬ。

「先生みて下さい。先生見て下さい」とぞろ／＼もつて來られるのは愉快だ。

勿論よいものばかりはない。こんなものかと落膽するところが度々ある。しかし時々傑作をみせてくれる。そのときのうれしさは何とも言へぬ。

よく出來たのには印をつけて教室につるした俳句集に墨で記入することになつてゐる。

その句集の中から更に佳作を選び、活字として公表することにしてゐる。

小學校の俳句としてはむづかしい理窟はいらぬと思ふ。彼等の日々經驗し創造する歡喜、驚愕、同情愛憐その心

新井白蟻

言葉花咲くものは心必らず實少し

口に蜜を造るものは心必らず針なり

妄りに譽るものは妄りに誹る

妄りに悦ぶものは妄りに哀しむ

私欲に耽るものは人倫の道を失ふ

色欲に迷ふものは時に親戚に背く

文盲の邪智は人の害をなすこと多し

氣に感じて始むるは暫らくにして消散る

心に感じてなすことは末を遂げて成就す



丹澤山塊踏破紀行

津久井・青野原 小 泉 碎 石

大正七年五月四日初めて蛭岳を攀ぢ、三塚を究めんと欲

して果さず、毎に之を憾みとせり。生を山塊の地に受け居を燒山の下に占め道志川の流に臨めるも、その根基たる丹澤山塊を知らずして無爲徒然たるは大に素志に反す。故に再遊の機会を待つこと年已でに久し、倅なる哉這回津久井郡教育會主催丹澤臨地講習會の開催あり、依てその聴講に加はり親しく指導を受け講説を聴き山塊の過去現在未來に涉りて幾分の光明を得たり。衷心の喜何物か之に如かんや便ち眼見耳聞の一端を叙して後日に供ふ。要は自己の備忘に過ぎざるのみ。

昭和六年八月四日午前四時三十分、青野原村、長野鎮守諏訪神社々頭に集合し、豫定に據て丹澤臨地講習會に向ふ同行約六十員にして本郡教職員に加ふるに他郡の参加者を

以てす。

社前に隊伍を整へ郷土の者をして嚮導たらしめ、諸星會長の告辭堀江講師の誨告を了して第一班先發す。予は第一班に加はり甘利訓導と共に東道の任に就けり、鎮守社頭に額きて一行の平安を祈念し、乃ち踏破の途に上る。第一班二十餘員登山の装軽く滿腔の喜を湛えて前進せり。

長野 集 合

臨地會同教學朋、山塊踏破幾層々、鎮守社頭長祈念、平安一路期必勝。

長野公會堂を左にし下村區を右に見て飲料水路に沿ふて行く。路左に巨岩抱合して下に一洞孔をなせるあり。里俗呼んで(姥ヶ懷)といひ江崎の龍洞に通せりと傳ふ。危橋を踏んで溪谷を涉り(一の谷)を目前に望み各筇杖に扶け

られて登る。羊腸たる山逕左折右曲して足指の仰くに從つて脚力大に疲る。朝暾未だ東嶺に上らず曉風肌を拂つて爽快拘すべきも山路の崎嶇なるがために全身汗流れて稍その痛苦なるを覺ゆ(胡坐松)を過ぎて一小坦路に憩ふ。後班未だ到らず而て海拔一、〇六〇米の燒山へも未だ半程に至らず、須臾にして旭曠東天に赫き曙光熱を放つて夏景頗に加はる。勇を鼓して山頂に登る九十九曲の峻坂を攀づるもの舊樵逕を進むもの咸くその意に隨ひ陸軍二等測量三角點に達す。この山上に燒山神社の石祠三社ありて眺望尤も佳なり。於茲講師地勢山質の梗概を説き一行を指導すること二十分許聽者大に益を受く。

燒 山

落ち行ける山の乙女を捕へんと道の明りに燒きしこの山一、二七四米の(黍穀)を通過し(八丁阪)の峻路を辿り一躍して一、四三三米の(姫岳)に達せんとす。先登數輩已でに前方に在りて後者を待つ、路上赤玉の點々青葉の間に隱顯せるを見る。試みに之を探れば所謂「栗藜莓」の熟せるなり。乃ち之を味ふ甘酸その宜きを得て大に旅情を慰さめ渴を醫するに足る實に山中の珍珠なり。村里の地一

ヶ月前に之れあるも此地今之を見る。その氣候の差ある即ち高峻の地たるを證し得べし。八丁坂の絶點に至れば數名の登山者嬉然として歸路に就けるに逢ふ。その趣味の同じくしてその踏査の異なるも亦一興あるを知る。

姫岳の頂全隊集合してその風光の幽且つ邃なるを賞す。

此の日や蒼穹晴れて涼風來り四山の光景畫圖の如く或は白雲の山腰を遶るあり、或は烟靄の山頭を覆ふあり、殊に富岳は晴空に屹立して威容群山を壓し、八朶の芙蓉天半に開き盛夏尙二條の雪線を劃して最高山岳の誇りを示せり。一行に吉田寫眞師あり、富岳を背景として茲に記念の撮影をなす、休憩を利用して講説太た惘切を極む。

燒 山 登 攀

一路提携互爲朋 燒山突兀碧層々 同行六十有餘員 談笑曳筇喜不勝。

姫 岳 風 光

近峯是友遠山明 南北東西碧幾層 姫岳風光如畫趣 今來古往稱幽勝。

姫 岳

落ちのびて一夜をこゝに泣き明かす長者の姫のやどりせし

山。姫岳より前進して（地藏澤）に降れば榛莽荆棘、路を塞ぎ草萊竹篠鬱茂して行歩尤も難む、樹木蟠屈して横縦槎枿戒心せずんば一步に顛躓の惧あらむ。前者後者に告げて之を戒む。大澤を横きりて山塊の盟主たる蛭岳の峻嶺に登る開鑿を施さざるの山路直上せる急坂又如何ともする能はず杖を曳き樹根を握り辛うじて絶巔を極め、心の欲する所を選び草棚に坐して行厨を披く時に午前十時なり。行厨の美舌を鼓すべし。大宰の美舌何かあらん、水筒の冷水、魔法壘の煎茶、或はサイダ或は赤茄子又は一力の辻又は鐘詰等百味の飲食に飢渴を養ひ、再び山上第二回の撮影をなす。頂上に薬師佛及山神を祀る。頂に掛小屋あり室廣からずと雖覆ふに亜鉛板を以てし圍むに木板を以てす。大正の初期には只炭焼渡世のみ往來せるに依りてその必要を感じざりしが、現今登山熱の勃興せる時に當りては、時に暴風疾雨の急を避くるの要なきにしもあらず、該屋舎の建設誠に機宜に適したるものと謂ふべし。海拔一、六七三米の（蛭岳）にては遠く甲信の山岳重疊せるを望み近く嶮嶺火山群の起伏せるを眺め、南面一帯相模灘の汪洋たる眼下一望丘陵連

亘して、遠近高低、碧蒼青緑たる一大自然美の展開にして足一たび此地を踏み心一たび此趣を味はば、心目の娯樂盡くる期なく興趣油然として停まる時なく、或は筆硯を呵して山塊雄大の状を綴るべく或は吟咏を假つて風致の美妙を傳ふべし。縣下此の大山脉あり何ぞ他に登攀の地を擇ぶを要せむや、郷土の人士宜しく實地の踏査を重ねて此の形勝を天下に宣傳せざるべけんや。

蛭岳絶嶺

雲爲友兮霧爲朋 山容重疊幾千層 挺然屹立稱盟主 丹澤塊中是最勝。

蛭岳

藥師岳高くそびへて丹澤の山又山へ續きけるかな。蛭岳を下りて一帯草嶺を過ぐ、山上の細逕青艸に埋もれてその方を辨せず。熊笹密生して路面の通すべきを覺えず前進者を目標としてその方向を定め草を分ち篠を披き先後相踵き以て落伍せざらむことを期するも、體力疲れ心頭亂れて壯舉の成功を訝るものあり。草山を走過して所謂三塚の丹澤山に出づ、登山口太た險なり。細逕急坂、石塊磊々として奇岩突出し恰も馬脊を過ぐるが如く、岩角を握り匍

匍せざれば毫も走過の術なく、足戰きて心安からず兢兢々として將に深谷に墜落せむことを恐る。前者後者を戒め後者前者を護り、一意通過の全からんことを念ひ、専心危険を免かれんことを慮り、敢て賞景觀光の餘裕を認むべきなし。大正癸亥震災前は地形今日の如く險ならず而も、疾風暴雨のため之を攀ぐるを得ざりしが、今日氣候順和にして天氣清朗なるも之を過ぐるの險なる昔日の比にあらず、亦以大正震災の慘たるを證すべし。第三回の撮影を行ひ遂に幸ひに一、五六七米の（丹澤山）頂に進むを得たり。一等測量地點として知らる頂路平夷にして老樹枝を交へ蘇苔路を封して畫趣愛すべく、巨幹鬱々として畫尙矇き所眞に深山裏の大公園にして都人士の遠遊亦宜なりといひつべし。歩いて三角點に達す。

丹澤展望

昨未知人今是朋 曳筇携手翠嵐層 山頭占得測量地 便識風光千古勝。

丹澤山

中、津久井、愛甲てふの三郡に跨り立てる丹澤の嶺。山上は廣坦なる叢原にて三郡の境界に接するを以て三塚

の稱あり。測量臺の側草葺小舎ありて雅趣を添ふ。溪谷に清水あり以て水筒を充たすことを得。一行は合主の厚意によつて運水の恵に浴し感謝の意を表して滿腹の涼味を得たり。山頂を東すれば煤谷、宮瀬の二村に出づべし。林間の細逕樹根を踏み藤葛を牽き、或は登り或は降り一、五〇三米（龍ヶ馬場）といへる茅戸の峰を辿り漸くにして一、四九二米（塔の岳）の頂を踏む。石標兩三、點在せり。や、右方に降れば比肩の巨石あり。所謂尊佛と種するもの、往昔は參拜多かりしといふ。その傍より清水混々湧出す實に山上の甘露水なり。水筒充すべく甘味掬すべし。眺矚之を久うするも山上寒暖六八度を計ふ。その冷涼推知すべし。眼下一望濃霧濛々として樹竹屋舎を辨せず、白雲溥々として秦野盆地を覆ふ。而して富岳大群等の山嶺は歴々として風光の賞すべきあり。空界の變化も亦奇ならずや。

塔岳古跡

靈光遺蹟勝。 靈光遺蹟勝。 靈光遺蹟勝。

塔の岳

尊佛とあがめまつれる塔の岳心も清く澄める岩水。

塔の岳山上路二又あり、左せん乎靈山大山に通ずべく右せん乎、中郡西秦野に達すべし。乃ち豫定によつて右方細逕に就く満目一帯、青艸茫々、坂路太険峻なり。兩脚戦き行歩太難む、細心の意を注がずんば顛して將に倒れんとす高嶺直下の急勾配大に戒めざるべからず。時には迂りて墜るものあり時には石に躓きて倒るるものあり、漸くにして一本松に至る。蓋し下りの半なりといふ一行の大部分は茲に休憩を執り、講師の講説によつて秦野盆地の扇形地積の成因を知り大に感興を惹起せり。

一本松樹

携手共歸教學朋 山峯嶺岳碧層々 雲烟消去如畫趣 脚下展開盆地勝。

一本松

秦野より一本高く見えにけりのぼりくだりの道標松。

一行の先發者は山下、大倉を経て西秦野校に至り煎茶の饗を乞ふ。校は最近の建設に拘はり宏壯にして新式運動場の廣曠たる頗る羨望に堪へざるなり。下山の者は少頃裝を解き茶饗を受く歸路の急を要すべき者は任意澁澤驛に至り乗車すべく午後七時、分互に志す方面に向つて券を估ひ東

西に袂を分つ、時已に嵐色蒼然暮鴉故巢に歸る。顧みて山塊を望めば遠邇高低の山嶺碧蒼青として一行の歸路平安を送るものの如し。嗚呼一日の山行、東西十又二里、南北五里の丹澤山塊を踏破して、講説を聴き大自然の懐に入りて高燥清淑の靈氣に浴し、雄大崇高の山威に接して以て詩腸を養ひ、起伏連疊の山勢を目して文材を資け、太古四、五萬年前の天地の變動を知りて、此山塊の將來を偲び大山塊の神氣に浸りて永久に生くべき道を體得して、以て昭和文化に貢獻し人生の本分を全うせんことを期す。山塊屈指に遑あらず今日踏破する所僅に四、五嶺のみ、更に異日未踏查の地を踏破して山塊の真相を廣く天下に紹介せんことは吾人山塊の地に生活せるものの責務なりと云ふべし。

大倉村落

山是友兮水是朋 綠廻如帶碧如層 田園活計奈何問 報道相州烟草勝。

大倉

大倉の中につみおく烟草炊くかまどのけむるもとかな。

澁澤乘車

車中歡樂一行朋 輕輦送迎幾碧層 四望風光吟興足 奚囊

應識滿幽勝。

澁澤

旅人の往きかひしげき澁澤の夕涼しき山の下風。

澁澤より搭乘、輕々の軋るに従つて驛時に大秦野：大根伊勢原に至る同行數輩分れて同町の旅亭に入る。是れ大山參拜の素志あるが爲なり。大山は山塊の一部にして開闢甚古く山頂に阿夫利神社を祀り山腹に大山不動尊を安置す。今や山開大祭中にて賽するもの多く殊に本年八月三日よりケーブルカーの設けありて山容一變せりといふ。時代の要求なりと雖靈山名場として多少の憾なしとせざるなり。鶴

厚木晚涼

街路相辭同志朋 近臨流水遠山層 相模橋上人如織 咸索

厚木

鮎漁の船浮べける相模川夏のあつさも忘るなるらむ。

飯山宿泊

小鮎河邊訪舊朋 孤行遙望翠嵐層 爐頭談笑電燈下 久瀾

飯山

叙來祝健勝。

飯山

夕餉時飯山さして宿らむと迫る心の安きことかな。

半原

途上舊知に逢ふ。而も予の變裝せる毫も舊知たるを解せず片言隻語なくして過ぐ、田代に至り平山橋、上中津川の涼々潺々たるを瞰下して涼風に路塵を拂ひ、遠望を恣にすること多時、此日や李公殿下奉迎のため素封家大矢家をはじ

鹽川の瀧のひびきと石小屋のいでゆのほまれたかき半原
半原舊道の溪間に憩ひ、溽暑三伏の熱を拂ひ、曲折羊腸
の坂路を攀ぢて志田峠の右に出で、韭尾橋：石ヶ澤：長竹
を経て炎天下得々として筈を曳き疲勞の念なく躍進邁往櫻
野：商澤：馬石：中ヶ谷戸：宮本橋を涉り戸面峠の新道に
向へり。峠の頂上切通しは道志山塊より吹き送れる清風の
ために満身の汗漿頓に消えて脚力の増せるを覺ゆ、家山を
目睫の間に望み微吟孤行梶野より縣道に出づ。

歸路獨行

山行有友却無朋 踏破蒼々丹澤層 歸路坐思幽邃境 探來
千岳萬谿勝。

鳥屋

夕暮にまだ程遠く旅の人迎れる鳥屋の山の路かな。

縣道を辿り、行く行く寺入澤の懸瀑を瞰ては徳川時代の
懷古に耽り、舊番所下の關下橋を望みては昔時交通の不便
なりしを知る。蓋し寺入澤の地域寺入橋より犬橋までは同
村井原寺が徳川三代家光より拜領したる所「乗物禁止」の
地なりしなり。番所下より有名な井泉石出づ井泉石は俗
に牡丹石といひ、石片うすく剝離して殆ど牡丹花に似たり

故にその稱あり古來梶野寺入：番所：を過ぎて原に至りし
が大正の聖代縣道中野谷村線の指定ありしより、本村下原
區を流るゝ蛇淵の下流に隧道を通して路線を築き新道を形
成せり。隧道によつて溪谷の美を添へ風景聊行路の心情を
慰むに足る。下午二巨鐘漸く故山に旅裝を解く。

寺入澤

新らしき道の上より見下せば水音高し寺入の瀧。

關下橋

古は往來しらべし關の址名残とどむる關下の橋。

原

青野原昨日たち出で一めぐり山路をふみて歸る古里。

沂に浴して旅塵を洗ひ、野茗を點して炎熱を去り團樂の
下、踏破の實況を語りて山容水態の奇勝を知らしめ、郷土
自然の愛樂すべきを曉らしむ。噫昨曉柴門を出て、今午柴
門に歸る。一日の山行目に見耳に聞き體驗實測に依つて贏
得せる効果は決して机上數篇の書を繕くに勝るや萬々なり
この會を企てたる當局の熱誠と指導の任に當られたる講師
の懇篤と會員の努力遂行と相俟つて此壯舉を全からしむ。
往古は山詣でに「六根清淨」を唱へし敬虔ありしも、現今

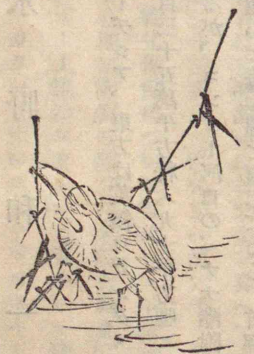
短筈共探勝

冠臨地講習四字

臨席導來似舊朋 地閑無累若如層 講場實境自然迹 習得
山明水美勝。

昭和六年八月四日登山 同月五日歸宅

津久井郡青野原村 碎石白水誌



の唯徒らに體育を口にして山容を傷け山靈を汚して顧みざ
るの輩は宜しく三省戒飭すべきなり。雲山蒼々江水泱々た
る所靈氣必ず鍾る。人生の元氣箇中に陶冶鍛鍊すべし山水
の感化豈に偉大ならずや。

予曾て賦せり「富岳高兮甞水清神州。元氣箇中成」と換
言すれば「山塊高矣永流清都土人心這裏成」なり。山塊に
地を拓き居を占むるものは山紫水明の自然美に浴し大自然
愛に抱擁せらるるの最大幸福なることを忘るべからず。

朝に丹澤山塊の燒山を友として體力を鍛へ夕に山塊より
注入せる道志川の流に心を磨き山水秀麗の靈氣を味得し、
郷土の開發伸展に盡瘁せむこと喫緊の要ありと信ず。臨地
講習の偶感一端を叙すること兩り。

浴沂洗熱

穩坐柴門憶友朋 共尋山岳幾多層 沂水浴來無炎熱 一輪

明月轉幽勝。

入浴

湯あみして洗ひながせり旅の塵心も清き夏の夕暮。

冠丹澤踏破四字

丹念約行臨地朋 澤幽溪靜綠苔層 踏來巨岳峻峰險 破笠



ベルギーのコンゴ經營

水 野 和 一

ベルギーは本國の八十倍に當るコンゴ植民地を有する故を以て、植民地の面積からいへば英、佛、伊太利に次ぐ第四の一大植民國たる誇りを有してゐる。

英適なるレオポルド二世が英國探險家スタンレーの獻策を容れ、コンゴ國際協會を組織してスタンレーをして再びコンゴ河流域を踏査せしめられたのは、五十年前一八七九年—八四年である。一八八五年には列國のベルリン會議の結果、コンゴ自由國としてベルギーの勢力下におかれ、一九〇九年にはベルギー領として併合さるゝに至つた。大戰の結果、元獨領東アフリカの一部ルアンダ及びウルデイ(面積二萬方哩人口三百萬)もコンゴ植民地の一部となつた。

コンゴは北方及び西北方は佛領赤道アフリカに、西方

及び南方は英領北ローデシア、東方は英領ウガンダ・タンガニカに接し面積二百三十五萬平方哩(九十平方哩)の廣大な地域を占めてゐるが、コンゴ河口のパナ港附近だけ南太平洋に面する僅かな海岸線を有してゐる。首都レオポルトヴィルに總督府を置き、全土を赤道、コンゴ・カサイ・カタンガ及び東部州に分ち、總人口はパンツ族八百五十萬を主として土民數千二百萬、在住白人數(一九二八年ば)二萬七百人(ベルギー人一萬四百人)である。

四十年前、コンゴ自由國の時代にはコンゴ河口のボマからの輸出品は唯一のバウム油であつたが、ベルギー政府が二十年間資源の開發に力を注いだ結果、今日では南阿につぐダイヤモンドの産出地となり、米國、南米につぐ世界第三の銅の産出地、金、ラヂウムの特産地となり、其

他家牙、コパル、バウム油、バウム實、棉花、ゴム、ココア、煙草を主要輸出品として一九二七年輸出額一〇億フラン。同年海外からボマ・マタデ・バナナ三港への入港船五二四隻、一、五一九、三四三トンに達するに至つた。鑛産物中、金の採掘額(一九二六年)は五、三五二噸に上り、カサイ河流域のダイヤモンド産額は一九一三年には一萬五千カラットに過ぎなかつたものが、一九二六年には百一十一萬カラットに上り、アントワープを経て英、米に輸出されてゐる。銅はカタンガ州のカンボウ地方に延長二百五十哩、幅員五十哩の大銅脈を有し、一九二七年採掘量八八、四〇〇トン、四〇、〇〇〇、〇〇〇トンの埋藏量を有すると稱せられてゐる。農産物中の棉花は一九一四年以來栽培を行つてゐるが一九二七年産額七、〇〇〇トンに達し、近く三〇、〇〇〇トン産出すべき見込で毎年六萬トン以上のアメリカ、埃及綿を輸入しつゝある。ベルギー本國は、將來原棉供給をコンゴに求むるに方針であるといふ。以上の現状によつても、ベルギー政府がいかにコンゴの資源開發に力を注ぎ來つたかが明かである。

貿易額は一九二八年輸入一、六二四、四九八(千フラン)

輸出一、二二七、八六七(千フラン)輸入はベルギー本國を主として英國、北ローデシア、獨逸、フランスより輸出は本國初め、北ローデシア、タンガニカ、蘭領モザンビク會社是一九一〇年には五〇〇に過ぎなかつたが、今日ではベルギー人、英國人、伊太利其他の經營せるもの四、五〇〇に及んで居る。コンゴの鐵道はマタデレオポルトウキル線を初め延長二、一八七哩、道路九、三七五哩。海外からの船舶はバナナ・ボマ・マタデ三港に出入するが、首都レオポルトウキルからコンゴ本支流の船舶航行は三千五百哩に及び。土民の教育は宗教團體に補助金を與へて普及を計り土民小學兒童數二十三萬人、駐屯軍一萬六千、警備員八千を置いてある。衛生保健についてはボマ・レオポルトウキル外二ヶ所の中心地に設備の整つた病院をおき、レオポルトウキル・コンゴ上流のスタンレーヴィル・赤道州のトカラトヴェール・カタンガ州のエリサベスウキールに醫學研究所を設置し、熱帯病殊に各地の風土病の研究を行はしめてゐる。近年は奥地に天然痘、熱病の流行を見る時かの特有の睡眠病の如きは殆んど跡を絶つた。一九二五年同地の白人種一萬二千人の死亡率は人口千に對し一二・

九で、殆んどベルギー本國と同率である。勿論植民地の移住者は多く壯年者で死亡率のかへつて低率を示すは當然であるが、一つは保健施設に整備にするはいふまでもない。

次にベルギーからコンゴの移住者数はどうか。本國が人口稠密し、資源の豊かな廣大な植民地を有するとすれば、來住者の多數なるを想像されるが事實は寧ろ少數である。近年ベルギー人の移住者数は一ヶ年平均一千五百人、(本國五百人)の程度である。その理由は氣候が平均華氏八〇・六度(雨量四三・二七吋)温熱地帯が多く、白人種の生活に多少不適なると、戦後渡航金を廢止せるためであると。ブラツセル植民省の當局者の話であつた。勞働は凡て土民を使用し、ベルギー人の移住者の業務は農場經營又は監督、鑛業地事務である。農場企業資金は凡そ三十萬フラン(一萬八千圓)農場監督の俸給は一ヶ月三千フラン、(百八十圓)程度であるといふ。

ベルギー政府は植民行政の機關としては、植民省と、十五名から成立つ植民地會議を置いてある。植民地會議は皇帝の諮問機關である。猶同國の植民行政の上に學ぶべき點は、植民省の事務を一層實際的ならしめるために、ブラツ

セルに植民局なる機關を別に設けてあることである。由來植民行政の本來の目的は資源開發、移住民獎勵にある事はいふまでもないが、統治政策に囚はれ本來の目的から離れ易い。ベルギーの植民局は植民省の硬化を防ぐ好個の施設であると思ふ。植民局はそれ自體コンゴ特産物陳列館であるが、又研究所でもある。各種の熱帯農産物、鑛産物の標本を陳列し、又統計及び案内書を刊行してコンゴ事情の周知を計つてゐる。私はブラツセルで同局長ジャンセン氏に面會して得るところが多かつた。

然し、コンゴに關する施設として、世に廣く知られてゐるのは、何といつてもかのブラツセル郊外テルヴユール公園のコンゴ博物館であらう。一九一一年建設された大規模の植民博物館である。會館は獸類模型部、發掘部、禽鳥部、昆蟲部、鑛産部、人種部等に分ち、コンゴ土民風俗を型つた彫像、大蛇、蜥蜴、鰐、象、猿等の標本模型パノラマ式の風景模型などによつて觀者をして恰も中央アフリカの未開の別天地に入つた感を抱かしめる。人種學的特色を有するところがロンドン英帝國協會陳列館などと著しく異なる點である。將來我國で植民博物館創設のためにはコンゴ博物館の如きは最も參考にあると思ふ。(完)



情 報

教 育 會

一、理事會狀況

九月十五日午後二時開會、出席者九鬼會長豊田副會長外十二名。高城主事より會務報告、問題協議に入る。

一、中等學校を本會に加盟勧誘の件

附近の中學校を通して本會加盟を勧誘することに決定す
小學校中、不加入のものありやとの九鬼會長の質問あり

一、二校ありとのみ答へて置く。

二、組織變更の問題

前年一度、持出された「本會組織變更の件は？」と會長の質問に應じて談は較と活氣を帯びてきた。會員一般が熱がないとか、會費負擔が實現困難の暗礁であるとか、かなり意見も賑はつたが、ともかく縣教育會の現情は精神的に

弾力のある者とは認めない。従つて輿論とか團體的にか自覺ある活動に人心を緊張せしむる必要があると言ふことは何人も異論のない處であつたので、所謂「國民精神作興に關する」の聖旨を擴充する意味に於いて全縣打つて一丸とする組織改造意見が成立したのである。

然し乍ら現在の各郡市教育會の組織を解體したり又は會員の經費負擔をそれがために加重するが如きことは避ける程度に於いて行ふと謂ふのである。

閉 會 五 時

二、村上副會長送別會

前村上副會長の送別會は本會幹部を以て、九月廿一日午後六時より横濱開港記念會館階上に於て開催され縣下の主なる中等學校長の参加多數ありて甚だ盛會裡に閉會した。

三、横濱市商業研究部に感謝

目下着手中にある高等小學校用商業教科書編纂に關し、横濱市商業研究部としての有益なる改良意見を寄せられたる左記各校に對し厚く感謝する次第であります。

編纂者としては各位實際家の御意見を十二分に參酌して組織内容共に新粧をこらして、各位の御厚志に副ひたいこ

とを専念する者でありますから、今後引續き御指導をお願いいたします。

横濱市老松小學校、日枝小學校、壽小學校、子安小學校、程ヶ谷小學校、峯小學校、蔦田小學校、東小學校、青木小學校、西前小學校、各位外一校

教員互助會

○教員互助會理事改選

舊理事九鬼三郎氏、村上寛氏、田邊郷左衛門氏各々九月十一日任期満了につき、九月十一日午後一時評議員會開催再選のところ。出席者十四名、全會一致、重任を決議した。依て十三日より前三氏就任することになった。

○互助會九月末資産現在高左の如し

神奈川縣農工銀行債券	五萬八千五百圓
定期預金	九千〇七十圓
振替貯金	千二百八十二圓八十六錢
貸附金	三千百九十圓
特別當座預金	千〇十三圓六十六錢
現計	二十八圓五十錢
	七萬三千〇八十五圓四錢

彙報

中學ノ修業年限ヲ四年ニ短縮スルヲ非ナリトスル理由

- 一、一般文化ノ低下ヲ來タス
- 二、健全ナル思想ノ養成ニ不十分ナリ
- 三、公民的訓練ヲ施スニ適切ナラス
- 四、學校教練ノ徹底ヲ缺ク
- 五、創造的能力ヲ養フコト不十分ナリ
- 六、修業年限短縮ノ必要アラバ上級學校ニ於テスルヲ可ナリトス

中學教育ハ國民ノ中堅トナリテ、國家ノ重ニ任スヘキ人士ノ養成ヲ主トスルモノナレバ、其ノ智能、思想品性等ノ教養ニハ最大ノ注意ヲ拂ハザルベカラズ。從ツテ其ノ修業年限ノ如キモ、廣ク教育上重要ナル事項ニ亘リテ、慎重ナル研究ノ後ニ決定スベキモノニシテ吾人カ曩ニ中學修業年限六年案ヲ主張セシハ、青少年者心身ノ發達ト國家社會ノ實情トニ鑑ミ、最モ適當ナ

リト信セシニ依ル。然ルニ文部省改革案ノ如ク、現在ノ五年ヲ更ニ短縮シテ四年トスルニ至リテハ、完成教育ノ實ヲ擧グル能ハサルハ勿論、實ニ我中學教育ヲ破壊スル虞アルモノニシテ、吾人ノ到底首肯スル能ハサル所ナリ。今其ノ理由ヲ簡明ニ提示スルコト左ノ如シ

一、一般文化ノ低下ヲ來タス

一國ノ文化ヲ堅實ニ發達進歩セシムルハ、國運ヲ隆昌ナラシムル基礎ナリトス。文明諸國カ小學ヨリ中等教育修了マテニ、十二年乃至十三年ヲ要スル制度ナルニ我國ノ現制十一年(高等學校ヲ通算セハ十三年トナルモ高等學校)ナルハ、國語、漢文、外國語等彼ノ國ニ比シテ學習ノ困難ナルモノアルニ顧ミ、尙短シト信スルモノナルニ、其ノ中ヨリ中學教育ニ於テ更ニ一ケ年ヲ短縮スルトセバ、將來我國ノ文化ヲ進展セシムル上ニ於テ、到底列強ト伍スル能ハサルニ至ルヤ明ナリ。

世間或ハ中學校卒業後各種上級學校ニ於テ、若クハ社會ノ實務ニ就キタル後尙修養ヲ繼續スルヲ得ベク、必スシモ完キヲ中學ニ求ムル要ナシトノ意見モアランカ、上級學校入學者ハ卒業生ノ一部ニシテ多數ハ直チニ實務ニ就クヘキ

モノナルヲ以テ、此ノ少數者ノ修業年限ヲ短縮センガ爲メニ、大多數ノ者ヲシテ一ケ年最上級ノ學習ヲ廢スルノ犠牲ヲ拂ハシメントスルハ實ニ本末輕重ヲ辨セサル論ナリ又社會教育機關ノ尙完備セサル今日ニアリテハ、實務ニ就ケル者ヲシテ不斷ノ修養ヲ積マシムルコトハ實際容易ノ業ニアラスシテ結局日進ノ文化ニ伴フ能ハサルヲ恐ル

二、健全ナル思想ノ養成ニ不十分ナリ

現代ノ如ク國民ノ思想次第ニ危險性ヲ帶ブルニ至リ、一般ノ風潮モ亦浮華輕佻ニ傾カントスルニ當リ、中正堅實ナル思想ヲ涵養シテ國民ノ幹部タルヘキ人物ヲ育成スルハ最モ緊要ナリトス。然ルニ十五六歳ノ少年ニテハ如何ニ努力セシムルモ學科及訓育ノ上ニ於テ此種ノ教育ニ十分ノ効果ヲ擧ケシムルコト能ハス。殊ニ國民精神ノ修養ニ最モ大切ナル中學第五學年ニ於ケル國史、修身及公民科ノ内容ノ如キハ之ヲ壓縮シテ、第三、第四學年ニ課スルモ効果甚々少カルヘク必スヤ相當ノ年齢ニ達シタル者ニ課シテ初メテ之ヲ十分咀嚼諒解セシメ修養ノ資料ヲラムルヲ得ベキナリ

三、公民的訓練ヲ施スニ適切ナラス

凡ソ人青年期ノ初メニ至リテ始メテ漸次義務ノ念、責任

感等確定スベク、將來國家ニ忠實ナル幹部トシテ民衆ト接觸シツ、之ヲ統率スベキ性能ヲ養成スルヲ得ルモ亦此期間ニ屬ス。此ノ期時ハ中學ニ於テハ實ニ第五學年ニ相當ス此ノ重要ナル最終學年ニ於テ、道德的公民的訓練ヲ施シ、統率能力、自治精神等ヲ養成シ初メテ立憲政治ニ參與スベキ中堅人士タル資格ヲ得ベキモノナリトス。四年打切案ハ此ノ大切ナル修養時期ヲ中斷セントスルモノニシテ、之ヲ例セハ果實ノマサニ熟セントスルニ之ヲ他ニ移植シテ其ノ成熟ヲ完カラシムル能ハサルガ如ク、青年期ノ教養ヲ理解セサル論ナリ。

四、學校教練ノ徹底ヲ缺ク

中學校ノ教練ノ成績ハ年ヲ追ウテ佳良ニ赴キ、卒業生ノ幹部候補生トナルモノモ一般ニ好結果ヲ收メツツアリテ、國家有事ノ際ニハ重要ナル責務ヲ分擔スヘキモノナリ。然ルニ四年打切リトナリテハ心身ノ發達上、到底現在ノ程度ノ教練ヲ課スルコト能ハス、又教練ノ時間モ著シク減少セラレ國軍ノ幹部タル資質能力ヲ低下ス。

五、創造的能力ヲ養フコト不十分ナリ

中學教育ニ於ケル理化、博物、圖書、手工、實業其他實驗觀察ヲ主トシ、且ツ實地ノ操作ヲ課スル學科ヲアリテハ

心身ノ發育ニ留意シ適當ナル時期ニ於テ相當ノ時日ヲ藉ニアラサレハ其ノ効果ヲ見ルヘカラス。特ニ此等ノ學科ハ指導宜シキヲ得バ獨創的能力ヲ養フ上ニ最モ有効ナルモノナルモ、年限ヲ短縮スルニ於テハ豫期ノ結果ヲ舉グル能ハス。又現代文化ノ進歩ニ伴ヒ日常生活ニ必須ナル智能ヲ啓培スルコトサヘモ期待シ得サルベシ。

六、修業年限短縮ノ必要アラバ上級

學校ニ於テスルヲ可ナリトス

從來大學卒業生ノ平均年齢高クシテ社會ノ實務ニ就ク上ニ不便アルヲ以テ之ヲ一二年短縮スベシトノ論アルモ、此ハ中學ヨリ高等校ニ入學ノ際及高等學校卒業生ガ其ノ希望スル大學ニ入學スル際ニ、可ナリ激シキ競争アリテ其ノ連絡圓滑ナラザルカ爲メ、自然大學卒業生ノ平均年齢ヲ高カラシメタルニ因ル。現在ノ學制系統ニテモ滿二十三歳ニテ大學ヲ卒業スルヲ得ルコトナルガ、カリニ四圍ノ情勢ヨリ見テ此ノ年限ヲ更ニ一、二年短縮スルヲ必要トセバ、中學ヲ六年ニ延長シテ教科ノ程度ヲ高メ高等學校ヲ廢シテ直チニ大學ニ連絡セシムルニ如カス、而シテ大學本來ノ目的タル學術ノ蘊奧ヲ究ムル者ノ爲メニ大學院ヲ設クルヲ至當ナリトセシヤ。之レ本協會ノ先年來唱道シ來リシ學制系統案

ノ骨子ナリトス。

中學ノ年限短縮ヲ以テ地方經濟ノ緩和ヲ圖ラントスル、論アルモコハ大ニ考慮ヲ要スヘキモノアリ。教育上ノ施設ヲシテ成ルベク經濟的ナラシムベキハ無論肝要ナルモ、經費ノ節減ハ教育上ノ効果價值ヲ著シク低下セシメサル範圍ニ於テスベク決シテ之レガ爲メニ中學ノ修業年限ヲ短縮シテ最上級ヲ削スル如キ學ニ出ヅベキモノニアラズ。

雜報

財團 國民工業學院

總長 眞野文二

本學院ハ工業ニ關スル學識ヲ普及スルヲ以テ目的トシ、ノ事業ノ一トシテ既ニ工業ニ從事シ又將ニ工業ニ從事セントスルモノヲ生徒トシ通信教授ヲ行フ本學院ハ生徒ノ修學中ト修了後トニ拘ラス、誘掖指導ノ任ニ當リ相互親睦ノ便ヲ圖ルモノトス。

學料及課程

本學院ノ學科ハ豫科、本科トス。修業期間ハ豫科ヲ六ケ月トシ、本科ヲ一ケ年トシ本科ヲ第一期、第二期ニ分ツ、

豫科ニ於テハ工業ニ關スル豫備ノ知識ヲ授ケ本科ハ現ニ從事シ若クハ將來從事セントスル工業ノ種類ニ應ジ之ヲ物理應用工學科、化學應用工學科、構造工學科ノ三科ニ分チ各專門ノ知識ヲ授ケ豫科本科共工業道德ニ重キヲ置キ之ヲ併セ授クルモノトス。

本科 (一ケ年)

物理應用工學科	材料、物理、化學、工業學、船舶學、航空學、大意、建築學大意、製圖
化學應用工學科	物理、化學、工業原料、分析化學、工業化學、冶金學、機械學大意、電氣工學大意、建築學大意
構造工學科	數學、物理、化學、建築材料、測量、應用力學、土木工學、建築構造學、探礦學、機械工學大意、電氣工學大意、製圖

工業道德ハ道德ノ信念開發及實行勸奨ヲ主トシ併セテ工學常識、作業要義、能率増進、工場經濟及心理等ニ關スル事項ヲ授クルモノトス。

本學院ノ教科書ハ各科共毎月一回之ヲ發行ス。本學院ノ學期ハ各科共毎年四月及十月之ヲ開始ス。尙詳細を知らんとする者は東京市京橋區銀座六ノ四交詢ビル國民工業學院編纂所に申込むべし。

叙任辭令

中等學校之部

横濱第三中學校長 川口武男
 横濱第二中學校長 瀧澤又市
 川崎中學校長 三森濱吉
 川崎高女校長 滋賀貞
 横濱第一高女校長 間宮仙之助
 横濱第二中教諭 藤澤高女 年繩秀治
 八級俸(當分千三百二十圓)下賜
 土屋小學校訓 副田與吉
 任奈珂中學教諭(五級俸當分九七圓)
 任小田原中學教諭(八級俸)早野辰彌
 囑託横濱第三中教諭 大澤政仁
 依願退 高津實科高女 伊野い
 依願退 小田原中教諭 服部慎行

小學校之部

横濱市
 横頭訓 小松眞三
 濱町訓 小川千太郎
 都筑、中、川崎市
 任宮前訓 黒部マキ
 任平塚公民教諭 田中道和
 任大野第一訓 大野第一准 高梨昇市
 任平塚公民教諭 三浦董平
 同 永井敬三
 同 陶山千春
 同 陶山ヨネ子
 同 平塚町高女專 杉山ヨネ子
 任平塚高小代 陶山千春
 年加一〇八圓給平塚公民 小松岩造
 依願退 大野第一 市川準二
 同 大田代 市川準二
 同 山内第二代 足立常吉
 同 都岡代 守屋亮
 同 市野澤代 片野福次
 同 都田代 清水桂一
 同 山内第二代 足立常吉
 同 田中正則
 同 牛尾重郎
 同 越地清
 同 上尾野邊定見
 同 羽太義治
 同 本多八郎
 同 安達末枝
 同 金子ユキ
 同 岩崎利治
 同 瀬戸保雄
 同 加藤保
 同 小島秀一
 同 今宮寛太郎
 同 加藤貞良
 同 鶴島静子
 同 小谷ナル
 同 熊坂末治
 同 加藤ちか
 同 義胤代 萩原キクエ
 同 都岡代 小島茂生
 同 鳴居代 小島新治
 同 田奈代 杉山貞治
 同 任旭訓 服部武夫
 同 旭准 奈池清一
 同 茅崎訓 大谷正次
 同 平塚第一代 尾崎定夫
 同 平塚第一代 向井晃澄
 同 小田原第一訓 添田孝司
 同 大野第一訓 伊藤とき
 同 任大野第一訓 茅崎訓 芦川妙子
 同 依願退 金目訓 市川きく
 同 國府訓 二宮しげ子
 同 任金目訓 福島五十子
 同 依願退 岡崎代 柳川淨賢
 同 金田代 武田太良
 同 休職 平塚第二訓 吉川勝治
 同 任伊勢原代 比々多代 佐藤辨造
 同 依願退 西栗野代 武藤力三
 同 依願退 大島訓 岩佐務

鎌倉、津久井、横須賀市

任山内第一訓 山内第一准 小清水貞明
 依願退 吾妻訓 原ミチ
 任吾妻訓 宮崎梅子
 休職 高部屋訓 林金藏
 任高部屋代 鈴木廣
 任大磯訓 大磯准 木村竹子
 年加二四圓給 同 伊奈長司
 任城島訓 城島准 同 伊奈長司
 十月 中 西村善作
 任宮前訓 宮前訓 松本茂三郎
 依願退 宮前訓 松本茂三郎
 七月 中
 年加六〇 本郷實補 永野ハツ
 依願退 川尻代 山本貞子
 任永野實補助教 永野訓 田中仲三
 依願退 中和田代 黒川藤吉郎
 死亡 戸塚訓 湯原眞
 年加十二 澤井訓 石塚政子
 依願退 鎌倉訓 大久保マツ
 任鎌倉訓 内郷代 大野元代
 依願退 鎌倉代 佐藤松治
 同 鎌倉代 青木清治
 同 中和田代 眞壁富仁

橘樹、愛甲

同 正修代 田中正則
 同 任戸塚訓 返子訓 牛尾重郎
 同 任川上訓 川上代 越地清
 同 任中和田准 中和田代 上尾野邊定見
 同 任澤山訓 南足柄訓 羽太義治
 同 依願退 沙入訓 本多八郎
 同 依願退 坂本訓 安達末枝
 同 依願退 日連代 金子ユキ
 同 任串川第三訓 串川第三准 岩崎利治
 同 特加一八 日連訓 瀬戸保雄
 同 休職 鎌倉訓 和田實
 同 任青根實補助教 青根訓 小島秀一
 同 任同囑託 青根代 今宮寛太郎
 同 任牧野准 牧野代 加藤貞良
 同 依願退 中野訓 鶴島静子
 同 任中野訓 高津訓 小谷ナル
 同 任鎌倉訓 高津訓 熊坂末治
 同 任千木良訓 加藤ちか
 七月 中
 死亡 稻田訓 龜井龜久藏
 任高津訓 高津代 黒沼鶴太郎

高座、足柄上

任厚木訓長 中津訓長 横溝正鼎
 兼任下川入村組合實補助長 青根訓長 關戸義敏
 八月 中
 兼任橋實補助教 橋訓長 崎巖
 任稻田第一訓 岡崎休訓 中山武雄
 依願退 萩野代 八木喜久江
 同 南毛利代 渡邊新太郎
 任南毛利訓 南毛利訓 大庭優雄
 依願退 任南毛利訓 石射ハナ
 同 守屋カネ
 九月 中
 依願退 高津訓長 曾根藤三
 七月 中
 依願退 高座海老名代 鈴木廣
 依願退 高座田名訓 江成テル
 任高座麻溝准訓 山本巖
 依願退 高座明治准 齋藤ハツ
 任明治訓(九下當三八) 矢野萩枝
 依願退 上栗野代 飯塚三郎
 同 三保代 志村旭
 同 有馬代 金子アイ

依願退	藤澤代	渡邊壽千代	死亡	小田原第三訓	岡崎智恵	湯河原訓	井上喜一郎
八月	中	成	依願退	六浦莊代	岡本稔	兼湯河原實補助教	田邊菊枝
任川村訓	開成	片岡優	八月	中	鈴木藤枝	依願退 小田原第一訓	片野福次
任清水訓	湯河原	石田餘五六	任走水代	仙石訓	黒川藤吉郎	任小田原第一訓	任高津訓長
任三保訓	宮城野	近藤さゝ	任長井代	特加一八給	瀧本重雄	任高津訓長	任高津訓長
休職	海老名	湯澤澤清	特加一八給	仙石訓	小山謙助	任葉山訓長	任葉山訓長
任海老名訓	座間	瀬戸薫	依願退	西浦代	片倉キク	任浦賀訓長	任浦賀訓長
任大野訓	瀬谷教之助	山下松太郎	同	同	高森なか子	任高坂訓長	任高坂訓長
住田名訓	金子アイ	荻部シゲ子	同	同	藤村貞親	依願退	依願退
任有馬訓	横溝昇三	戸田松太郎	同	同	山崎元泰	南浦訓	南浦訓
任茅崎訓	都筑鐵訓	内田唯助	依願退	葉山代	遠藤新作		
依願退	大野代	村山博	同	同	鹿島様一		
同	茅崎代	山下松太郎	同	同	吉原和		
同	御所見代	川本熊次郎	同	同	高杉大吉		
同	曾我代	佐々木武陵	同	同	水野勇		
同	川村代	山口英子	依願退	葉山訓	浦野喜久		
同	南足柄代	杉山貞治	任湯河原訓	清水訓	細谷哲三		
任大澤代			依願退	三崎訓	堀田鈴江		
七月	中		依願退	三崎訓	關志路正枝		
依願退	北下浦代	榎本作五郎					
同	初聲代	大原完一					

足柄下、三浦、久良岐

編輯後記

○前號「東郷氏の祖先は相模より出づ」の文中次の通訂正す。一六頁、十四行「澁谷金玉丸を祭る」を「澁谷金玉丸關係」に。十五行「東郷一族の系統」を「東郷一族の直系々統」に。一五頁十五行「島津貴久」を「島津義久」に△九月は非常に多忙の月であつたが、幸に會員諸君の熱のある力作の寄稿が多かつたため、編輯の坂をやつとこさで越すことができた。就中、五十嵐米八郎君の南洋紀行所感は、始から終まで全く忘我三昧に面白く讀ませられてしまつた。

△小泉碎石君の丹澤山塊紀行南洋紀行と相並んで本誌を賑はされたことを深く感謝す。

△次號豫告

次號から本會役員、理事諸君に毎號執筆を煩はすことにした。一段の精彩を添へることと信ず。従つて一般會員各位としても追蹊投稿せられんことを希望してやまない。懸賞文も本月末を以つていよ／＼締切となりますが、かなり原稿は届いてはゐはしますが百に満たなければ心細い感があります。大車輪の大努力をお頼みいたします。

本誌定價

一部 金貳拾五錢

一年分前納 金貳圓五十錢

本誌廣告料

特別頁 一頁 十圓 半頁 五圓

普通頁 一頁 五圓 半頁 三圓

三ヶ月以上連續掲載 六ヶ月以上連續掲載 五圓 三圓 引

昭和六年十月八日印刷
昭和六年十月十日發行

發行所 横濱市中區日本大通り縣廳教務課内
神奈川縣教育會
振替貯金口座東京三三三番

編輯人 横濱市鶴見區東寺尾町千五百八十番地
吉田 清太郎

印刷人 横濱市中區住吉町五丁目五十八番地
鈴木 清五

印刷所 横濱市中區住吉町五丁目五十八番地
横濱活版舎
(電話長渚町〇七五六番)

